

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年6月19日

【事業年度】 第43期(自平成24年3月21日 至平成25年3月20日)

【会社名】 アルインコ株式会社

【英訳名】 ALINCO INCORPORATED

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 小山勝弘

【本店の所在の場所】 大阪府高槻市三島江1丁目1番1号  
(注) 上記は登記上の本店所在地であり、実際の本店業務は下記で行っておりま  
す。

【電話番号】 (072)677 - 0316(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長兼施工安全管理室担当 岸田英雄

【最寄りの連絡場所】 大阪市中央区高麗橋4丁目4番9号

【電話番号】 (06)7636 - 2222(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長兼施工安全管理室担当 岸田英雄

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜1丁目8番16号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第39期	第40期	第41期	第42期	第43期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
売上高 (千円)	31,301,666	28,652,922	30,736,470	32,753,036	35,017,213
経常利益 (千円)	1,068,212	622,393	1,596,417	2,214,806	3,045,223
当期純利益 (千円)	42,842	274,241	909,869	1,187,387	1,633,648
包括利益 (千円)				1,317,492	1,935,586
純資産額 (千円)	12,098,428	12,090,531	12,759,588	13,757,821	15,276,061
総資産額 (千円)	25,699,778	24,441,330	24,988,460	27,474,092	29,277,139
1株当たり純資産額 (円)	665.39	679.92	717.55	773.64	856.96
1株当たり当期純利益 (円)	2.30	15.29	51.17	66.77	91.87
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)				66.71	91.39
自己資本比率 (%)	47.1	49.5	51.1	50.1	52.0
自己資本利益率 (%)	0.3	2.3	7.3	9.0	11.3
株価収益率 (倍)	89.6	15.6	7.4	8.6	9.9
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,826,544	3,287,716	3,149,968	2,845,516	2,466,957
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,605,981	1,303,456	1,616,335	2,287,606	2,557,002
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	367,472	1,491,450	515,764	540,457	157,657
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	2,177,466	2,672,214	3,684,423	3,694,436	3,832,881
従業員数 〔外、平均臨時 雇用者数〕 (名)	812 〔85〕	818 〔94〕	770 〔106〕	804 〔108〕	833 〔104〕

(注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。

2 第41期以前の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第39期	第40期	第41期	第42期	第43期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
売上高 (千円)	29,786,602	27,225,547	29,132,866	31,322,727	33,377,185
経常利益 (千円)	988,005	403,045	1,487,952	2,133,282	2,825,648
当期純利益又は 当期純損失 ( ) (千円)	107,866	83,596	831,260	1,165,406	1,470,503
資本金 (千円)	5,571,558	5,571,558	5,571,558	5,571,558	5,571,558
発行済株式総数 (株)	19,509,326	19,509,326	19,509,326	19,509,326	19,509,326
純資産額 (千円)	11,944,517	11,741,217	12,361,713	13,359,625	14,582,848
総資産額 (千円)	25,033,105	23,586,134	24,058,278	26,419,465	27,976,797
1株当たり純資産額 (円)	656.93	660.27	695.17	751.25	820.04
1株当たり配当額 (内、1株当たり 中間配当額) (円)	13.00 (9.50)	8.00 (6.00)	15.00 (4.00)	20.00 (7.00)	25.00 (11.00)
1株当たり当期純利益 又は当期純損失 ( ) (円)	5.79	4.66	46.75	65.54	82.70
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)				65.47	82.26
自己資本比率 (%)	47.7	49.8	51.4	50.6	52.1
自己資本利益率 (%)	0.9	0.7	6.9	9.1	10.5
株価収益率 (倍)		51.1	8.1	8.8	11.0
配当性向 (%)		171.7	32.1	30.5	30.2
従業員数 〔外、平均臨時 雇用者数〕 (名)	663 〔59〕	638 〔67〕	615 〔82〕	611 〔82〕	627 〔76〕

(注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。

2 第41期以前の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

3 第39期の株価収益率及び配当性向は、当期純損失を計上しているため記載しておりません。

2 【沿革】

年月	概要
昭和45年 7月	井上鉄工株式会社設立。(本店所在地大阪府高槻市)
8月	東京支店開設。(東京都中央区)
昭和46年 4月	名古屋営業所開設。(名古屋市、現名古屋支店)
昭和47年 1月	大阪支店開設。(大阪市)
1月	広島営業所開設。(広島市、現広島支店)
10月	アルミ製梯子(住宅用)の製造を開始し、同製品の販売部門としてアルメイト株式会社を設立。
昭和48年 1月	福岡営業所開設。(福岡市、現福岡支店)
昭和52年 7月	工業用無線機器の製造を開始し、同製品の販売部門として、アルインコ電子株式会社を設立。 同製品の貿易部門としてアルインコ貿易株式会社を設立。
昭和54年 6月	仮設機材のリース、レンタル部門として、アルインコ建材リース株式会社を設立。
昭和56年 9月	札幌営業所開設。(札幌市)
9月	仙台営業所開設。(仙台市)
昭和58年 3月	アルメイト株式会社より営業の譲渡を受ける。
3月	社名を「アルインコ株式会社」に変更。
10月	テレビ、カタログによる通信販売事業開始。
昭和62年 1月	本社事務所を移転。(大阪府高槻市から大阪市中央区へ)
昭和63年 3月	コンビニエンス事業開始「コンパス南寺方店」守口市に開店。
平成 2年 9月	兵庫工場(兵庫県丹波市)(現兵庫第一工場)完成。
平成 3年 1月	小杉電子株式会社(富山県射水市 現アルインコ富山株式会社)を買収する。
7月	栃木茂木工場(栃木県芳賀郡茂木町)完成。
平成 5年 3月	大阪証券取引所市場第二部に上場。
平成 9年 2月	アルインコ電子株式会社及びアルインコ貿易株式会社より営業の譲渡を受ける。
7月	茂木倉庫(栃木県芳賀郡茂木町)完成。
10月	足場工事の施工部門として、全額出資により東京仮設ビルト株式会社(埼玉県川口市)を設立。
12月	兵庫第二工場(兵庫県丹波市)完成。
平成10年 8月	建設機材事業部高槻工場を兵庫第二工場へ集約。
8月	住設事業部アルミ型材センター(大阪府高槻市)を開設。
平成13年 7月	本社事務所・大阪支店を移転。(大阪市中央区から北区へ)
11月	建設機材事業部と住宅機器事業部の生産部門を統合。
平成14年 3月	アルインコ建材リース株式会社を吸収合併。
5月	住宅機器関連事業の物流拠点を高槻事業所に集約。
平成15年 9月	中華人民共和国(江蘇省蘇州市)に蘇州アルインコ金属製品有限公司を設立。
平成18年 1月	東京証券取引所市場第二部に上場。
平成19年 6月	株式会社光モール(大阪府藤井寺市)を買収する。
平成20年 3月	中央ビルト工業株式会社(東京都中央区)の株式を追加取得したことにより、同社が持分法適用会社となる。
9月	本社事務所・大阪支店を移転。(大阪市北区から中央区へ)
11月	オリエンタル機材株式会社(沖縄県那覇市)を買収する。
平成22年12月	株式会社ピカコーポレイション(大阪府東大阪市)と資本・業務提携契約締結。
平成23年10月	中華人民共和国(江蘇省蘇州市)にアルインコ建設機材レンタル(蘇州)有限公司を設立。
平成24年 9月	中華人民共和国(遼寧省瀋陽市)に瀋陽アルインコ電子有限公司を設立。
平成24年11月	タイ王国(バンコク市)にアルインコ(タイランド)株式会社を設立。

### 3 【事業の内容】

当社の企業集団等は、子会社8社及び関連会社2社で構成され、建設用仮設機材の製造・販売・レンタル、DIY用品などの住宅機器の製造・販売、電子製品等の製造・販売を主な事業内容とし、更に各事業に関連する物流、研究及びその他のサービス等の事業活動を展開しております。

その主な事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付けは次のとおりであり、これらは各セグメントと同一の区分であります。

なお、当社は当連結会計年度において、瀋陽アルインコ電子有限公司及びアルインコ（タイランド）（株）を設立いたしました。瀋陽アルインコ電子有限公司は小規模会社であり、アルインコ（タイランド）（株）は開業準備中であり、いずれの会社も重要性が無いため、連結の範囲から除外しております。

**建設機材関連事業：** 連結財務諸表提出会社（以下アルインコ（株）という）が製造販売及び仕入販売するとともに、その一部をオリエンタル機材（株）を通じて販売もしております。

中央ビルト工業（株）との間においては製品の相互供給を通じて、各社の得意先へ販売を行っております。

また、中華人民共和国において蘇州アルインコ金属製品有限公司が製造した製品をアルインコ建設機材レンタル（蘇州）有限公司が販売しております。

なお、東南アジアにおける製造拠点としてタイ王国にアルインコ（タイランド）（株）を設立し開業に向けた準備を進めております。

**レンタル関連事業：** アルインコ（株）が製造した製品の一部を、自社運用資産として得意先にレンタルしているほか、オリエンタル機材（株）もレンタルを行っております。

東京仮設ビルト（株）は足場工事の施工を行う会社であり、アルインコ（株）の受注物件ないし独自の受注物件の請負工事を行っております。

中央ビルト工業（株）との間においてはレンタル用の仮設機材を相互に供給し、各社の得意先へレンタルしております。

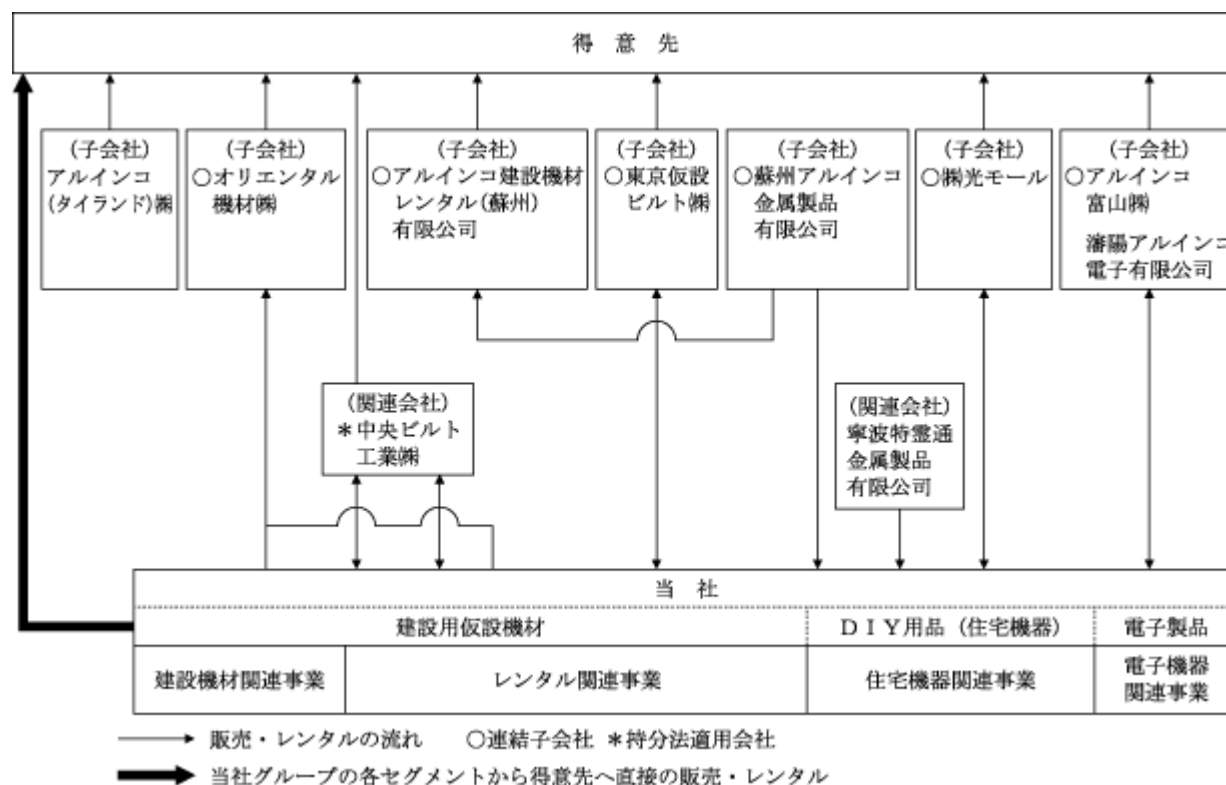
また、中華人民共和国において蘇州アルインコ金属製品有限公司が製造した製品をアルインコ建設機材レンタル（蘇州）有限公司がレンタルしております。

**住宅機器関連事業：** 蘇州アルインコ金属製品有限公司並びに寧波特靈通金属製品有限公司が製造した製品をアルインコ（株）が販売するほか、一部をアルインコ（株）が製造または仕入れて販売しております。

（株）光モールドは、樹脂等の成型材であるモール材の仕入販売を行っている会社であり、アルインコ（株）からアルミ型材などを仕入れて販売しております。

**電子機器関連事業：** アルインコ（株）が開発・設計した仕様に基づき、製造工程の一部を子会社のアルインコ富山（株）に外注しております。無線機周辺機器については、アルインコ（株）が仕入れて販売しております。

また、瀋陽アルインコ電子有限公司はアルインコ（株）から無線通信機器の開発・設計の一部を受託しております。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 又は 出資金 (千円)	主要な事 業の内容	議決権の 所有割合(%)	関係内容			
					役員の兼任		資金 援助	営業上の取引
					当社 役員 (人)	当社 従業員 (人)		
(連結子会社) アルインコ富山(株)	富山県射水市	50,000	電子機器 関連事業	100.0	1	3	資金 援助	電子機器の組立・加工 請負
東京仮設ビルト(株)	埼玉県川口市	20,000	レンタル 関連事業	100.0	3	2		足場の架払請負
蘇州アルインコ金属 製品有限公司 (注) 2	中華人民共和 国江蘇省蘇州 市	7,500千 米ドル	建設機材 関連事業 並びに 住宅機器 関連事業	100.0	3	2	資金 援助	金属製品及び関連製 品の開発・製造並び に販売
(株)光モール	大阪府藤井寺 市	25,000	住宅機器 関連事業	100.0	3			アルミ型材の販売
オリエンタル機材(株)	沖縄県中頭郡 西原町	24,000	建設機材 関連事業 並びに レンタル 関連事業	100.0	2	2		建設用仮設機材の販 売・レンタル
アルインコ建設機材 レンタル(蘇州)有限 公司	中華人民共和 国江蘇省蘇州 市	5,500千 米ドル	建設機材 関連事業 並びに レンタル 関連事業	90.9	4	2		建設用仮設機材の販 売・レンタル
(持分法適用関連会社) 中央ビルト工業(株) (注) 3	東京都中央区	275,500	建設機材 関連事業 並びに レンタル 関連事業	32.68	2			建設用仮設機材の販 売・仕入・レンタル

(注) 1 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。  
2 特定子会社であります。  
3 中央ビルト工業(株)は有価証券報告書提出会社であります。

## 5 【従業員の状態】

### (1) 連結会社の状態

平成25年3月20日現在

セグメントの名称	従業員数(名)	
建設機材関連事業	115	( 5)
レンタル関連事業	263	(53)
住宅機器関連事業	295	(24)
電子機器関連事業	97	(13)
全社(共通)	63	( 9)
合計	833	(104)

- (注) 1 従業員数は就業人員数であり、臨時従業員数は( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。  
2 臨時従業員には、アルバイト、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。

### (2) 提出会社の状態

平成25年3月20日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
627 (76)	39.8	12.4	5,706

セグメントの名称	従業員数(名)	
建設機材関連事業	96	( 3)
レンタル関連事業	259	(51)
住宅機器関連事業	155	(10)
電子機器関連事業	56	( 3)
全社(共通)	61	( 9)
合計	627	(76)

- (注) 1 従業員数は就業人員数(当社から社外への出向者を除く。)であり、臨時従業員数は( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。  
2 臨時従業員には、アルバイト、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。  
3 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

### (3) 労働組合の状態

労働組合は、結成されておられません。が労使関係は安定しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度（以下、当期という。）のわが国経済は、海外経済の減速や長期化した円高による輸出の減少を主因に平成24年春頃をピークとして同年末頃までは景気の後退局面にありました。その後は、海外経済の持ち直しに加えて新政権による金融緩和政策や大型補正予算などの内需刺激策により、国内景気の回復期待が高まっております。

当社グループの主な関連業界である建設及び住宅関連業界においては、首都圏を中心とした社会インフラの整備や住宅・マンションのリフォーム需要、及び被災地での復旧・復興需要の拡大により建設投資は引き続き緩やかな回復基調を維持しております。

このような状況のなかで当社グループにおいては、第1四半期から建設機材関連事業並びにレンタル関連事業が期初予想を上回って好調に推移したことや、第3四半期からは電子機器関連事業において防災行政無線やデジタル消防無線の受注・売上が好調に推移した結果、売上高は前期比6.9%増の350億17百万円となりました。

利益面では、売上高増加による量産効果やレンタル機材の稼働率上昇により売上総利益率が改善した結果、営業利益は前期比21.9%増の27億26百万円、経常利益は為替予約によるヘッジ効果もあり前期比37.5%増の30億45百万円、当期純利益は前期比37.6%増の16億33百万円となりました。なお、無線機器に係る市場回収処置（リコール）にともなう損失見込額を特別損失に計上しております。

各セグメント別の状況は次のとおりであります。セグメント区分の売上高はセグメント間の内部売上高を含んでおりません。

各セグメントの名称	連結売上高		連結営業利益（セグメント利益）	
	金額（百万円）	前期比（％）	金額（百万円）	前期比（％）
建設機材関連事業	8,506	13.0	745	61.2
レンタル関連事業	13,822	3.1	1,320	37.2
住宅機器関連事業	9,250	1.5	326	53.8
電子機器関連事業	3,438	27.1	334	223.6
報告セグメント計	35,017	6.9	2,726	21.9

#### 建設機材関連事業

当事業の売上高は前期比13.0%増の85億6百万円となりました。前期から高水準であった仮設機材レンタル会社の購買意欲が期初から顕在化するとともに、その後も社会インフラ等についての耐震・リフォーム工事などの潜在需要に対する期待感が底堅く推移したことから、既存の枠組製品や新型システム足場、S Kパネル並びにアルミ作業台の販売が好調に推移しました。

損益面では売上高の増加により、営業利益が前期比61.2%増の7億45百万円となりました。



## レンタル関連事業

当事業の売上高は前期比3.1%増の138億22百万円となりました。首都圏における耐震・リフォーム工事の増加により中高層用レンタル部門の機材稼働率が順調に推移するとともに、低層用レンタル部門では新設住宅着工戸数の伸びによる新築工事の増加に加えてリフォーム工事が堅調に推移しました。

損益面では、選別受注の効果などにより売上総利益率が改善したことから、営業利益は前期比37.2%増の13億20百万円となりました。

## 住宅機器関連事業

当事業の売上高は前期比1.5%増の92億50百万円となりました。アルミ製品は天候不順や復興需要の一巡により量販店向けの販売が軟調でしたが、従来から注力しておりました金物・工具ルート向けの販売が増加しました。また、フィットネス部門は前期並みで推移しました。

損益面では、中国における人件費の上昇や期末にかけて急速に進んだ円安などにより、海外からの仕入コストが上昇したため、営業利益は前期比53.8%減の3億26百万円となりました。

## 電子機器関連事業

当事業の売上高は、前期比27.1%増の34億38百万円となりました。安定した特定小電力無線機の販売に加え、期初から平成23年度補正予算を利用した自治体の災害対策向け無線機の販売が好調に推移しました。また、防災行政無線やデジタル消防無線の受注により売上高が増加しました。

損益面では売上高の増加により、営業利益が前期比223.6%増の3億34百万円となりました。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度（以下、当期という。）末における現金及び現金同等物（以下、資金という。）の残高は38億32百万円となり、前連結会計年度（以下、前期という。）末に比べ1億38百万円増加しました。なお、前期において非連結子会社であったアルインコ建設機材レンタル（蘇州）有限公司を当期から連結の範囲に含めたことにより、資金が3億21百万円増加しております。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、24億66百万円（前期比3億78百万円の収入減）となりました。税金等調整前当期純利益が前期比7億8百万円増の28億49百万円となりましたが、法人税等の支払額が前期比7億47百万円増加したことや仕入債務の減少によって支出についても増加しました。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動においては、レンタル資産の取得や機材センター拡張にともなう建設協力金の支払いのほか、アルインコ（タイランド）㈱設立にともなう出資払込などにより、資金の支出は前期比2億69百万円増の25億57百万円となりました。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動においては、増加運転資金に対応した借入金の増加により、資金の支出は前期比3億82百万円減少し1億57百万円となりました。

## 2 【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
建設機材関連事業	7,284,387	+18.5
電子機器関連事業	3,610,459	+32.5
住宅機器関連事業	1,985,195	11.3
合計	12,880,043	+15.9

(注) 1 金額は販売価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去しております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (2) 商品仕入実績

当連結会計年度における商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	仕入高(千円)	前年同期比(%)
住宅機器関連事業	4,912,313	+0.9
建設機材関連事業	2,220,336	12.9
レンタル関連事業	11,301	21.2
合計	7,143,950	3.9

(注) 1 金額は仕入価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去しております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (3) 受注実績

当社グループの主な製品は、そのほとんどが需要予測による見込生産を行っているため、受注実績は記載しておりません。

### (4) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
レンタル関連事業	13,822,284	+3.1
住宅機器関連事業	9,250,218	+1.5
建設機材関連事業	8,506,630	+13.0
電子機器関連事業	3,438,080	+27.1
合計	35,017,213	+6.9

(注) 1 セグメント間の取引については相殺消去しております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### 3 【対処すべき課題】

今後のわが国経済は、海外経済の回復傾向や円安の進展に伴う輸出増加により、成長率の高まりが期待されます。このような状況のなかで当社グループは、耐震・リフォームの底堅い潜在需要に対して販売とレンタルの両面での対応を強化してまいります。

当社グループは従来より「ニッチマーケットでトップ企業に」を経営方針として事業の多角化に取り組み、収益力の強化と環境変化に強い企業体質作りを目指してまいりました。

この方針のもと中長期的には、次のような課題に取り組んでまいります。

#### 独創性の高い高収益商品の開発

当社グループの市場におけるポジションと技術力、様々な現場から寄せられるユーザーのニーズを活かして、競争持続性に優れた独自商品の開発に努め、次なる成長分野の発掘に取り組んでまいります。

#### 海外市場への展開強化

当社グループは既に中華人民共和国において蘇州アルインコ金属製品有限公司、アルインコ建設機材レンタル（蘇州）有限公司を設立し、アルミ製品と建設用仮設機材の製造並びに販売・レンタルの拠点として事業展開を進めております。また、当連結会計年度中に同国に瀋陽アルインコ電子有限公司を、タイ王国にはアルインコ（タイランド）㈱を設立し海外展開を拡大しております。今後は高成長が続く中国・東南アジア地域における事業基盤の構築を図り、海外売上高比率を高めてまいります。

#### 安全管理への取り組み強化

当社グループの製品については安全性や信頼性に対する取り組みが普遍的な課題であります。当社は製品安全、機材整備並びに品質に関する取り組みを行うことを目的に製品安全管理室を、また仮設機材施工に関する安全性向上を目的に施工安全管理室を設けております。これら横断的組織のサポート体制により各事業部門とも安全に対する取り組みを強化してまいります。

### 4 【事業等のリスク】

#### (1) 為替の変動について

当社グループの住宅機器関連事業は海外委託生産を行っており、平成25年3月期の米ドル建商品仕入高は当社グループの総商品仕入高の57.7%となっております。当社グループは今後もコストダウンによる価格競争力を保持し販売シェア拡大のため、海外委託生産を継続する方針であります。取引は大部分が米ドル建てで行われており、為替相場が変動した場合、当社グループの業績に影響を受ける可能性があります。当社では仕入コストの安定を目的として為替予約取引による為替ヘッジを行っております。

#### (2) 建設動向について

当社グループの建設機材関連事業及びレンタル関連事業においては建設関連の仮設足場機材の販売並びにレンタルを事業としております。この業界はバブル期以降、縮小傾向で推移しておりますが、想定をさらに上回る建設需要の減少や関連価格の大幅な変動が起こった場合は当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (3) 新設住宅着工戸数の動向について

当社グループのレンタル関連事業の低層用仮設機材レンタルは主に住宅の建築時に使用されるため、当社グループの業績は新設住宅着工戸数の増減に少なからず影響を受けております。新設住宅着工戸数は一般経済情勢、金利動向、地価動向、建築基準法、税制等様々な要因の影響を受けますので、その結果によっては当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 海外生産拠点への依存について

当社グループの電子機器関連事業の無線機等の製造工程のうち組立加工について価格面、品質面及び安定供給等の観点から外注先を選定した結果、フィリピンでの組立加工に依存する割合が大きくなっており、また、住宅機器関連事業も子会社の蘇州アルインコ金属製品有限公司を始め数社において海外委託生産を行っており、その主な国は中国であります。生産委託先のある国々の政治・社会情勢及び為替動向等によっては、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 建設業法について

当社グループのレンタル関連事業が取得している一般建設業の「とび・土工工事業及び内装仕上工事業」の許可票は1件当たりの請負金額が500万円未満の請負工事においては必要とされておりません。しかしながら当社のレンタル関連事業の主な取引先は住宅会社、建設会社、工務店、リフォーム業者であり、取引を行なう場合一般建設業の許可については必須事項となっておりますので、一般建設業の許可の取消や停止事由が発生した場合は当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 将来に関する事項について

以上に記載している将来に関する事項は、有価証券報告書提出日(平成25年6月19日)現在において当社グループが判断したものであります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

当社グループの研究開発活動は、提出会社である当社のみが行っております。

当社の研究開発活動は、事業戦略上、顧客ニーズに応じた高付加価値品の開発を基本理念として、顧客と連携してマーケットに密着した商品開発に取り組むとともに、事業分野の多角化も視野に入れたマーケティング活動を推進しております。

当連結会計年度(以下、当期という。)に研究開発費として計上すべき金額はありませんが、建設機材関連事業ならびに住宅機器関連事業においては技術開発部が、また電子機器関連事業においては設計開発課が製造工程と密接に連携して継続的な製品の改良・新技術の開発に努めており、その費用は製造原価として処理しております。

技術開発部においては、建設用鋼製仮設機材ならびにハッチ式足場板や作業台等アルミ製機材の安全性及び機能向上、コスト低減、各種基準適合ならびに顧客ニーズの対応等を主眼とした研究開発活動を展開しております。当期においては、新型クサビ式足場の用途拡張を目的とした関連機材開発及び性能検証、高所の安全、安心な作業をサポートする落下養生機材の開発、将来の安全基準改定を考慮したアルミ親綱支柱及びアルミ製先行手すりの性能向上研究、アルミ製作業台の安全性確保のための周辺機材等の開発を行うとともに、ハザード分析とリスクアセスメントを実施した安全、安心な機材開発ならびに製品化を行いました。

電子機器関連事業の設計開発課においては、従来から培った無線技術を基礎として、特定小電力無線機、広帯域受信機、防災無線再送システム等に開発テーマを絞り込み効率化を図っております。また、レンタル用途にも使用できる新規分野のデジタル簡易業務無線機の開発も継続して取り組んでおり、無線応用機器分野でもOEM製品の開発を手がけております。

当期は、平成28年5月までに移行が決定した消防救急デジタル波の専用受信機として携帯型受令機DJXF7、車載型受令機DRXF7及びその周辺機器を開発しました。また無線応用製品として仮設足場用無線センサー、更に防災無線再送システムの中継用送信機及び戸別受信機等の開発を行いました。

## 7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 財政状態の分析

#### (資産)

当連結会計年度末（以下、当期末という。）の総資産は292億77百万円となり、前期末に比べて18億3百万円増加しました。総資産の内訳は、流動資産が195億16百万円（前期末比12億31百万円増）、固定資産が97億60百万円（前期末比5億71百万円増）であります。流動資産の主な増加要因は受取手形及び売掛金やたな卸資産の増加であり、固定資産の主な増加要因はアルインコ（タイランド）株（非連結子会社）に対する出資にともなう投資有価証券の増加であります。

#### (負債)

負債の部は当期末残高が140億1百万円となり、前期に比べて2億84百万円増加しました。その内訳は、流動負債が96億37百万円（前期末比5億88百万円減）、固定負債が43億63百万円（前期末比8億73百万円増）であります。流動負債の主な減少要因は支払手形及び買掛金や短期借入金の減少であり、固定負債の主な増加要因は長期借入金の増加であります。

#### (純資産)

当期末の純資産は、当期純利益16億33百万円、配当実施額4億26百万円などの要因により、152億76百万円（前期末比15億18百万円増）となりました。

### (2) キャッシュ・フローの分析

当期のキャッシュ・フローの状況については、「1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フローの状況」をご参照ください。

### (3) 経営成績の分析

当期の経営成績については、「1 業績等の概要 (1) 業績」をご参照ください。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度のセグメント毎の設備投資は、レンタル関連事業15億17百万円、建設機材関連事業2億32百万円、住宅機器関連事業33百万円、電子機器関連事業2億14百万円、管理部門32百万円であり、総額20億30百万円であります。

#### 2 【主要な設備の状況】

当社グループ(当社及び連結子会社)における主要な設備は以下のとおりであります。

##### (1) 提出会社

平成25年3月20日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)							従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	土地		リース 資産	その他	合計	
					面積(m <sup>2</sup> )	金額				
高槻事業所 (大阪府高槻市)	建設機材 住宅機器 関連事業	物流拠点 研究開発	171,101	36,109	12,045	581,637	1,172	15,210	805,230	56 (4)
兵庫第一工場 (兵庫県丹波市)	建設機材 関連事業	生産設備	58,667	12,287	14,440	66,978		661	138,595	12 ( )
兵庫第二工場 (兵庫県丹波市)	建設機材 関連事業	生産設備 物流倉庫	424,128	82,248	32,804	558,694	47,357	17,658	1,130,087	38 (2)
栃木茂木事業所 (栃木県芳賀郡茂木町)	住宅機器 関連事業	物流拠点	147,824	3,612	9,876	79,011		571	231,019	10 ( )
本社事務所・大阪支店 (大阪市中央区)	全セグメント	全社的 管理業務 営業拠点	15,198	1,035			18,766	72,157	107,157	187 (12)
東京支店 (東京都中央区)	全セグメント	営業拠点	10,895	1,339				3,502	15,737	63 ( )
川越機材センター (埼玉県川越市) (注)2	レンタル 関連事業	中・高層用 資材センター	12,639	6,923				564,022	583,585	11 (1)
高槻機材センター (大阪府高槻市) (注)2	レンタル 関連事業	中・高層用 資材センター	10,931	5,936				474,877	491,745	4 ( )
関東地区 さいたま営業所 (さいたま市岩槻区) 他14営業所 (注)2	レンタル 関連事業	低層用 営業拠点 資材センター	83,096	76				288,223	371,397	92 (15)
東海地区 名古屋営業所 (愛知県小牧市) 他2営業所 (注)2	レンタル 関連事業	低層用 営業拠点 資材センター	20,455					39,803	60,258	17 (10)
近畿地区 神戸営業所 (神戸市北区) 他5営業所 (注)2	レンタル 関連事業	低層用 営業拠点 資材センター	14,111	2,093				118,583	134,788	44 (35)
九州地区 福岡営業所 (福岡県糟屋郡宇美町) 他2営業所 (注)2	レンタル 関連事業	低層用 営業拠点 資材センター	9,367	1,127				48,411	58,906	16 (10)
賃貸用土地 (大阪府高槻市)	全社共通	賃貸土地	6,703		2,564	304,192		18	310,913	

(注) 1 帳簿価額には、建設仮勘定の金額を含んでおりません。

2 その他には、レンタル資産1,530,266千円が含まれております。

3 従業員数の( )は、臨時従業員数を外書しております。

4 現在休止中の主要な設備はありません。

5 上記のほか、連結会社以外からの主要な賃借設備の内容は、下記のとおりであります。

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	土地面積 (㎡)	年間賃借及び リース料 (千円)	摘要
兵庫第二工場 (兵庫県丹波市)	建設機材 関連事業	鋼製長尺足 場板製造ラ イン		68,263	リース
高槻事業所 (大阪府高槻市)	住宅機器 関連事業	物流拠点	7,630	30,183	賃借
栃木茂木事業所 (栃木県芳賀郡茂木町)	住宅機器 関連事業	物流拠点	12,617	4,332	賃借
本社事務所・大阪支店 (大阪市中央区)	全社共通	事務所		96,798	賃借
東京支店 (東京都中央区)	全社共通	事務所		90,047	賃借
川越機材センター (埼玉県川越市)	レンタル 関連事業	中・高層用資 材センター	42,894	65,596	賃借
高槻機材センター (大阪府高槻市)	レンタル 関連事業	中・高層用資 材センター	26,967	78,312	賃借
神戸営業所 (神戸市北区)	レンタル 関連事業	低層用営業拠 点・資材セン ター	6,556	23,425	賃借
大阪整備センター (神戸市北区) 他2箇所	レンタル 関連事業	整備機械		8,697	リース

(2) 国内子会社

平成25年3月20日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)	
				建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地		リース 資産	その他		合計
						面積(㎡)	金額				
アルインコ 富山(株)	本社工場 (富山県射水 市)	電子機器 関連事業	電子機器 生産設備	41,335	97,349	4,341	218,418		192	357,295	41 (12)
(株)光モール	本社事務所 (大阪府藤井 寺市)	住宅機器 関連事業	事務所・ 倉庫	109,859		789	89,108		1,233	200,201	12 (15)

- (注) 1 帳簿価額には、建設仮勘定の金額を含んでおりません。  
2 従業員数の( )は、臨時従業員数を外書しております。  
3 現在休止中の主要な設備はありません。  
4 上記のほか、連結会社以外からの主要な賃借設備の内容は、下記のとおりであります。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	年間リース料 (千円)	摘要
アルインコ 富山(株)	本社工場 (富山県射水 市)	電子機器 関連事業	レーザーマー キング装置等	2,690	リース

(3) 在外子会社

平成24年12月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)	
				建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地		リース 資産	その他		合計
						面積(m <sup>2</sup> )	金額				
蘇州アルインコ 金属製品 有限公司	蘇州工場 (中華人民共 和国江蘇省蘇 州市)	建設機材 関連事業 並びに 住宅機器 関連事業	建設機材・ 住宅機器 生産設備	460,998	93,112				26,642	580,753	115 ( )
アルインコ建設 機材レンタル (蘇州) 有限公司	蘇州販売・レ ンタル (中華人民共 和国江蘇省蘇 州市)	建設機材 関連事業 並びに レンタル 関連事業	中・高層用 仮設資材		4,609				114,066	118,675	9 ( )

- (注) 1 帳簿価額には、建設仮勘定の金額を含んでおりません。  
2 現在休止中の主要な設備はありません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	事業の 種類別 セグメント の名称	設備の内容	投資予定額		資金調達方法	着手年月	完了予定 年月	完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)				
アルインコ (タイランド) (株)	タイ工場(タ イ王国バンコ ク市)	建設機材 関連事業	工場新設	1,110	211	借入金及び 自己資金	平成25年 2月	平成26年 8月	(注)

- (注) 1 完成後の増加能力については合理的に算定できないため、記載しておりません。  
2 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。



## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	35,200,000
計	35,200,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成25年3月20日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年6月19日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	19,509,326	19,509,326	東京証券取引所 (市場第二部) 大阪証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 100株
計	19,509,326	19,509,326		

#### (2) 【新株予約権等の状況】

平成23年9月6日の取締役会決議に基づいて発行した会社法に基づく新株予約権は、次のとおりであります。

	事業年度末現在 (平成25年3月20日)	提出日の前月末現在 (平成25年5月31日)
新株予約権の数(個)	2,050 (注) 1	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	205,000 (注) 1	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	365 (注) 2	同左
新株予約権の行使期間	平成25年6月21日～ 平成27年6月20日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 369 資本組入額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。	同左
新株予約権の行使の条件	(注) 3	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による本新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 4	同左

(注) 1 新株予約権 1 個につき目的となる株式数は、100株であります。

なお、当社が株式分割（当社普通株式の株式無償割当てを含む。以下同じ。）または株式併合を行う場合は、次の算式により本新株予約権の目的である株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は、本新株予約権のうち、当該時点で権利行使または消却されていない本新株予約権の目的である株式の数についてのみ行われ、調整の結果生じる 1 株未満の端数は切り捨てる。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割（または併合）の比率

また、当社が他社と合併する場合、会社分割を行う場合、その他これらの場合に準じて株式の数の調整を必要とする場合には、当社は合理的な範囲で適切に株式の数の調整を行うことができるものとする。ただし、かかる調整は、本新株予約権のうち、当該時点で権利行使または消却されていない本新株予約権の目的である株式の数についてのみ行われ、調整の結果生じる 1 株未満の端数は切り捨てる。

2 新株予約権発行後、当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整による 1 円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割（または併合）の比率}}$$

また、当社が、当社普通株式につき時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整による 1 円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{ 株当たり払込金額}}{1 \text{ 株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記算式において「既発行株式数」とは、当社普通株式にかかる発行済株式総数から当社普通株式にかかる自己株式数を控除した数とし、また、当社普通株式にかかる自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとする。

さらに、上記のほか、当社が他社と合併する場合、会社分割を行う場合、その他これらの場合に準じて行使価額の調整を必要とする場合には、当社は、合理的な範囲で適切に行使価額の調整を行うことができるものとする。

3 新株予約権の行使の条件

(1) 新株予約権者は、下記( )及び( )に掲げる条件のいずれかが満たされた場合にのみ、本新株予約権を行使することができる。なお、国際財務報告基準の適用等により参照すべき経常利益の概念に重要な変更があった場合には、別途参照すべき指標を取締役に定めて定めるものとする。

( )平成24年3月期の監査済みの当社連結損益計算書（連結財務諸表を作成していない場合は、損益計算書）において経常利益が16億円を超過しており、かつ、平成25年3月期の監査済みの当社連結損益計算書（連結財務諸表を作成していない場合は、損益計算書）において経常利益が18億円を超過していること。

( )平成24年3月期及び平成25年3月期の監査済みの当社連結損益計算書（連結財務諸表を作成していない場合は、損益計算書）における経常利益の合計額が35億円を超過していること。

(2) 新株予約権者は、平成25年3月期の有価証券報告書の提出日から本新株予約権の行使期間の終期に至るまでの間において、金融商品取引所における当社普通株式の普通取引終値が一度でも金480円を上回った場合のみ、本新株予約権を行使することができる。

(3) 新株予約権者は、本新株予約権の割当後、当社の取締役及び従業員並びに当社子会社の取締役の地位を喪失した場合、当該喪失以降本新株予約権を行使することができない。ただし、当社取締役会が承認した場合は、この限りではない。

(4) 新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。ただし、当社取締役会が承認した場合は、この限りではない。

(5) 本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における授權株式数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。

(6) 各本新株予約権の一部行使はできない。

#### 4 組織再編行為の際の新株予約権の取扱い

当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）を行う場合において、組織再編行為の効力発生日に新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

- (1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数  
新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。
- (2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類  
再編対象会社の普通株式とする。
- (3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数  
組織再編行為の条件を勘案のうえ、上記(注)1に準じて決定する。
- (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額  
交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、組織再編行為の条件等を勘案のうえ、上記(注)2で定められる行使価額を調整して得られる再編後行使価額に、上記(3)に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じた額とする。
- (5) 新株予約権を行使することができる期間  
前記に定める行使期間の初日と組織再編行為の効力発生日のうち、いずれか遅い日から前記に定める行使期間の末日までとする。
- (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項  
上記(4)に準じて決定する。
- (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限  
譲渡による取得の制限については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。
- (8) その他新株予約権の行使の条件  
上記(注)3に準じて決定する。
- (9) 新株予約権の取得事由及び条件  
当社が消滅会社となる合併契約、当社が分割会社となる会社分割についての分割契約もしくは分割計画、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画について株主総会の承認（株主総会の承認を要しない場合には取締役会決議）がなされた場合は、当社は、当社取締役会が別途定める日の到来をもって、本新株予約権の全部を無償で取得することができる。  
新株予約権者が権利行使をする前に、上記(注)3に定める規定により本新株予約権の行使ができなくなった場合は、当社は新株予約権を無償で取得することができる。  
新株予約権者が本新株予約権の放棄を申し出た場合は、当社は本新株予約権を無償で取得することができる。
- (10) その他の条件については、再編対象会社の条件に準じて決定する。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成18年2月21日 (注)	200	19,509	70,800	5,571,558	70,700	3,206,759

(注) 第三者割当 発行価額707.50円 資本組入額354円  
割当先 野村證券(株)

(6) 【所有者別状況】

平成25年3月20日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)		15	18	109	40	1	2,972	3,155	
所有株式数 (単元)		20,492	737	64,126	4,259	140	105,325	195,079	1,426
所有株式数 の割合(%)		10.51	0.38	32.87	2.18	0.07	53.99	100.0	

(注) 1 自己株式 1,727,131株は「個人その他」に17,271単元、「単元未満株式の状況」に31株含まれております。  
なお、期末日現在の実質的な所有株式数は1,727,131株であります。  
2 上記「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が37単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成25年3月20日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
アルメイト(株)	大阪府池田市旭丘2丁目12-16	2,874	14.73
アルインコ共栄会	大阪市中央区高麗橋4丁目4-9	1,384	7.09
日本トラスティ・サービス 信託銀行(株)	東京都中央区晴海1丁目8-11	744	3.81
井上雄策	大阪市北区	579	2.96
井上敬策	大阪府豊中市	574	2.94
井上康子	大阪府豊中市	526	2.69
井上商事(株)	大阪府池田市旭丘2丁目12-16	500	2.56
アルインコ従業員持株会	大阪市中央区高麗橋4丁目4-9	487	2.49
(株)近畿大阪銀行	大阪市中央区城見1丁目4-27	451	2.31
(株)アクトワンヤマイチ	大阪市北区堂島浜1丁目4-19	446	2.28
計		8,567	43.86

(注) 1 上記日本トラスティ・サービス信託銀行(株)が所有している株式は信託業務に係るものであります。  
2 上記のほか当社所有の自己株式1,727千株(8.85%)があります。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年3月20日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,727,100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 17,780,800	177,808	
単元未満株式	普通株式 1,426		
発行済株式総数	19,509,326		
総株主の議決権		177,808	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が3,700株(議決権37個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式31株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年3月20日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) アルインコ(株)	大阪府高槻市 三島江1丁目1番1号	1,727,100		1,727,100	8.85
計		1,727,100		1,727,100	8.85

(9) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、新株予約権方式によるストックオプション制度を採用しております。

当該制度は、会社法に基づき、平成23年9月6日の取締役会において決議されたものであります。

当該制度の内容は、次のとおりであります。

決議年月日	平成23年9月6日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役9 当社従業員55 当社子会社取締役5
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の 交付に関する事項	同上

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	1	0
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における取得自己株式には、平成25年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他				
保有自己株式数	1,727,131		1,727,131	

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成25年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

### 3 【配当政策】

当社は株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして位置付けております。

剰余金の配当につきましては、安定的な配当の維持を基本方針とし、1株当たり当期純利益の増加にあわせて増配等を行ってまいりたいと考えております。

内部留保金につきましては、中国・東南アジアへの海外投資や今後成長が見込める事業分野に積極的に投資を行い更なる企業価値の向上を図るとともに、競争優位性の維持に必要な財務基盤の安定にも配慮してまいります。

なお、剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本としており、また、決定機関につきましては、会社法第459条第1項に基づき、法令に別段の定めがある場合を除き、取締役会の決議によって配当を行うことができる旨を定款に定めております。

これらの方針に基づき、当期の期末配当金につきましては、1株当たり14円とさせていただきました。既に平成24年11月26日実施済みの中間配当金1株当たり11円と合わせまして、年間配当金は1株当たり25円となります。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たりの配当額 (円)
平成24年10月19日取締役会決議	195,604	11.0
平成25年5月2日取締役会決議	248,950	14.0

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第39期	第40期	第41期	第42期	第43期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
最高(円)	383	306	450	609	992
最低(円)	185	205	206	332	482

(注) 1 株価は、大阪証券取引所市場第二部におけるものであります。

2 最近5年間の事業年度別最高・最低株価は、4月1日から3月31日までの間の最高・最低を表示しております。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年10月	11月	12月	平成25年1月	2月	3月
最高(円)	678	665	766	930	992	949
最低(円)	608	625	640	760	810	869

(注) 1 株価は、大阪証券取引所市場第二部におけるものであります。

2 最近6箇月間の月別最高・最低株価は、平成24年10月1日から平成25年3月31日までの暦月によっております。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長		井上 雄 策	昭和18年12月20日生	昭和42年4月 昭和45年7月 平成4年6月 平成5年6月 平成5年6月 平成15年9月 平成15年10月 平成19年6月 平成20年11月 平成21年6月 平成23年10月 (有)井上鉄工所入社 アルインコ(株)(旧井上鉄工(株))設立 専務取締役就任 アルインコ建材リース(株)代表取締役 社長就任 当社代表取締役社長就任 アルインコ富山(株)代表取締役社長 就任 蘇州アルインコ金属製品有限公司 董事長就任(現任) 東京仮設ビルト(株)代表取締役社長 就任 (株)光モール代表取締役社長就任 オリエンタル機材(株)代表取締役社 長就任 当社代表取締役会長就任(現任) アルインコ建設機材レンタル(蘇 州)有限公司董事長就任(現任)	(注)1	579
代表取締役 社長		小 山 勝 弘	昭和40年11月16日生	平成2年4月 平成15年3月 平成19年8月 平成20年3月 平成20年6月 平成21年5月 平成21年6月 平成24年9月 旧(株)トーマン入社 Eurus Energy America Corporation パイスプレジデント (副社長) 当社入社 当社仮設リース事業部部長 当社執行役員 当社企画部部長 当社企画部長 アルインコ富山(株)代表取締役社長 就任(現任) 東京仮設ビルト(株)代表取締役社長 就任(現任) (株)光モール代表取締役社長就任 (現任) オリエンタル機材(株)代表取締役社 長就任(現任) 当社代表取締役社長就任(現任) 瀋陽アルインコ電子有限公司董事 長就任(現任)	(注)1	44
専務取締役	建設機材 事業部長 兼仮設リース 事業部担当	加 藤 晴 朗	昭和24年9月18日生	昭和51年3月 昭和54年3月 平成3年6月 平成9年6月 平成9年12月 平成13年6月 平成18年3月 平成23年3月 平成23年6月 ジェイスラー(株)入社 当社入社 当社建設機材事業部営業部長 当社取締役就任 東京仮設ビルト(株)代表取締役社長 就任 当社建設機材事業部長(現任) 当社専務取締役就任 当社仮設リース事業部担当(現任) 当社専務取締役就任(現任)	(注)1	33
常務取締役	管理本部長 兼施工安全 管理室担当	岸 田 英 雄	昭和24年3月5日生	昭和48年4月 昭和52年4月 平成3年6月 平成12年10月 平成13年6月 平成18年8月 平成19年6月 平成22年6月 平成23年10月 サンロック工業(株)入社 当社入社 当社経理部長代理 当社経理部長 当社取締役就任 当社情報システム部長 当社常務取締役就任(現任) 当社管理本部長(現任) 当社施工安全管理室担当(現任)	(注)1	30



役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
常務取締役	オクト事業部長	平野 晴正	昭和23年9月4日生	昭和45年12月 昭和52年9月 平成5年6月 平成12年6月 平成14年3月 平成14年6月 平成17年1月 平成22年4月 平成24年6月 平成25年1月	第一鋼業(株)入社 当社入社 アルインコ建材リース(株)オクト事業部東京支店長 アルインコ建材リース(株)取締役就任 アルインコ建材リース(株)合併により当社オクト事業部東京支店長 当社取締役就任 当社オクト第一事業部長 当社オクト事業部長(現任) 当社オクト事業部東日本営業部長 当社常務取締役就任(現任) 当社オクト事業部中日本営業部長	(注)1	16
取締役	総務部長	家塚 昭年	昭和26年12月22日生	昭和49年4月 平成14年4月 平成15年2月 平成16年6月 平成19年6月 平成20年10月 平成23年6月	旧(株)大和銀行入社 同社人事部副部長 (株)近畿大阪銀行執行役員人事部長 当社入社 当社総務部長(現任) 当社執行役員 当社情報システム部長 当社取締役就任(現任)	(注)1	20
取締役	生産本部長 兼生産本部 技術開発部長 兼製品安全管理室長	高田 壮平	昭和26年4月8日生	昭和51年4月 平成18年6月 平成19年6月 平成20年6月 平成23年6月 平成24年5月	当社入社 当社生産本部技術開発部長(現任) 当社執行役員 当社生産本部副本部長 当社製品安全管理室長(現任) 当社取締役就任(現任) 当社生産本部長(現任)	(注)1	10
取締役	住宅機器 事業部長 兼フィットネス 事業部長	前川 信幸	昭和26年11月17日生	昭和48年7月 平成2年10月 平成18年6月 平成20年3月 平成20年6月 平成21年5月 平成23年6月	長谷川工業(株)入社 当社入社 当社住宅機器事業部営業部長 当社執行役員 当社住宅機器事業部長(現任) 当社フィットネス事業部長(現任) 当社取締役就任(現任)	(注)1	6
取締役	経理部長 兼財務部長	小林 宣夫	昭和32年1月20日生	昭和55年4月 平成20年9月 平成22年4月 平成23年3月 平成24年6月	旧(株)大阪銀行入社 (株)近畿大阪銀行取締役執行役員オペレーション改革部担当 当社入社 当社執行役員 当社財務部長(現任) 当社経理部長(現任) 当社取締役就任(現任)	(注)1	13
常勤監査役		折本 高幸	昭和23年9月27日生	昭和46年4月 平成7年9月 平成11年6月 平成11年11月 平成13年6月 平成19年6月 平成20年6月	旧(株)日本興業銀行入社 同社証券事務部副部長 当社入社 当社社長室長 当社審査部長 当社取締役就任 当社企画部長 当社常勤監査役就任(現任)	(注)2	16
監査役		衣目 修三	昭和24年10月26日生	昭和53年3月 昭和53年8月 昭和62年6月	公認会計士登録 公認会計士事務所開設 当社監査役就任(現任)	(注)2	20
監査役		野村 公平	昭和23年5月12日生	昭和50年4月 昭和52年4月 平成16年6月	弁護士登録 弁護士事務所開設 当社監査役就任(現任)	(注)2	13
計							805

- (注) 1 取締役の任期は、平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成26年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 2 監査役の任期は、平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 3 監査役 衣目修三・野村公平の2名は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
- 4 当社は、平成19年6月18日より経営環境の変化に迅速に対応すると共に、経営の透明性を確保する為、取締役会の意思決定、監督機能と執行機能を分離し責任の明確化と機動的な業務執行を行える経営体制の構築を目的として執行役員制度を導入しております。  
執行役員は6名で、電子事業部長 奥村佳則、アルインコ(タイランド)㈱出向 谷村正之、電子事業部生産部長 楠原和広、建設機材事業部関東・中部ブロック長兼東京支店長 岡本昌敏、住宅機器事業部営業本部兼国際部部長 三浦直行、オクト事業部東日本営業部長兼千葉支店長 小嶋博隆で構成しております。
- 5 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第2項に定める補欠監査役2名を選出しております。

補欠監査役の略歴は以下のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		所有株式数 (千株)
浅井俊幸	昭和30年4月1日生	昭和52年4月 平成13年5月 平成17年9月 平成24年10月	旧㈱大阪銀行入社 ㈱近畿大阪銀行 本町営業部副部長 当社入社 当社総務部部長代理(現任)	1
松本邦雄	昭和20年9月1日生	昭和39年4月 平成15年7月 平成16年8月 平成16年9月 平成18年9月 平成19年3月	大阪国税局入局 神戸税務署長 税理士登録 税理士事務所開設 ㈱ワールド監査役就任(現任) クリヤマ㈱監査役就任(現任)	

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### 企業統治の体制

#### イ コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

(イ) 当社グループは「社会に貢献」「会社の発展」「社員の成長」を社憲に掲げ企業活動を通じて社会的責任を果たすとの認識の上にたち、経営の健全性、透明性、迅速な意思決定を重視しつつ企業価値を高める経営を目指しております。

また、株主・投資家の皆様へは、迅速かつ正確な情報開示に努めるとともに、経営の透明性を一層高めたいります。

(ロ) 当社は暴力団等反社会的勢力と一切の関係を持たないとの企業倫理確立に努めており、反社会的勢力との関係はありません。反社会的勢力との関係遮断はコンプライアンスの精神に則り対応するとともに企業防衛の観点からも不可欠であり、その潜在的リスクに対しては全ての役員、使用人に対し啓蒙活動を行うことにより対応しております。具体的には反社会的勢力対応規程を制定し、新規の取引開始時だけでなく継続して反社会的勢力との取引の有無を確認することにより反社会的勢力の排除に取り組んでおります。

また、反社会的勢力からの要求や接触方法が近年巧妙になる傾向があることを踏まえ「反社会的勢力対応マニュアル」を全ての役員、使用人に対して配布し、啓蒙活動に努めております。

#### ロ 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

当社は「取締役会」「監査役会」制度を採用し経営の意思決定、執行並びに経営監視を行っております。

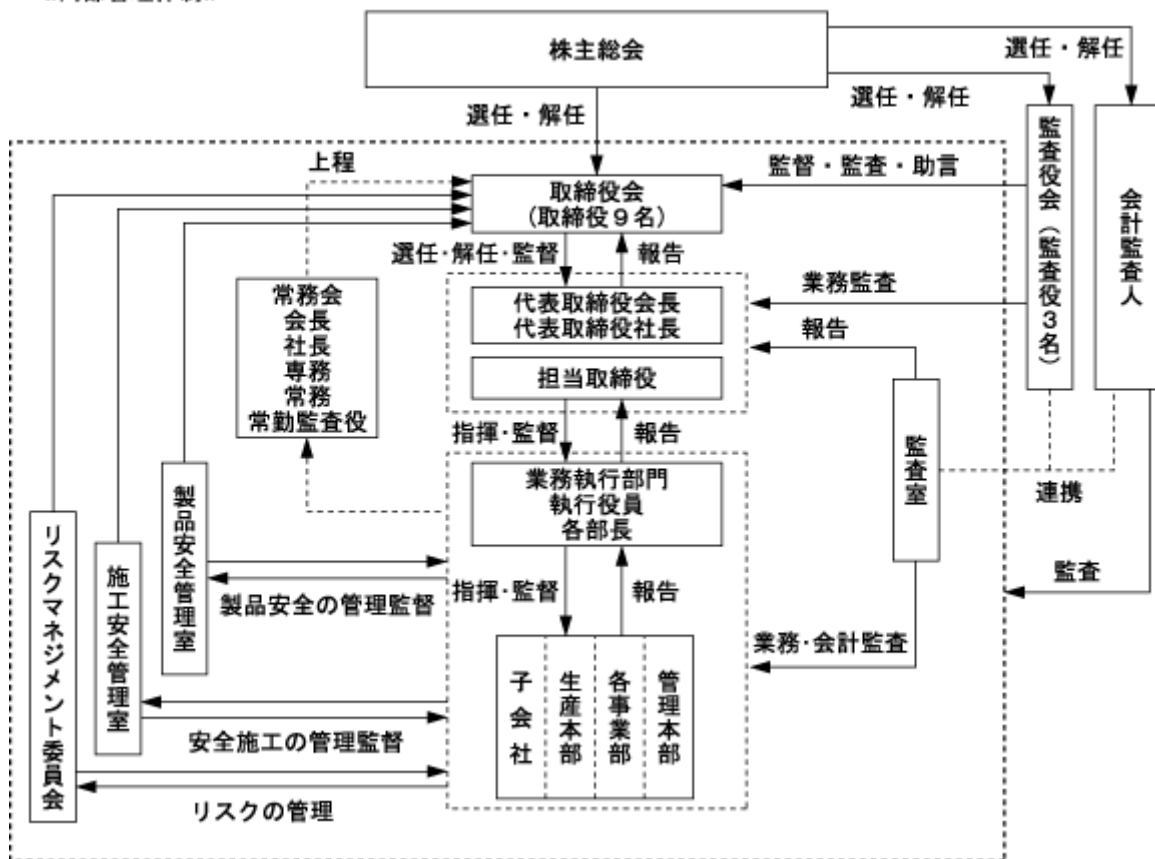
#### (イ) 会社の機関の内容

a 取締役会は取締役9名で構成し当社グループ全般にわたる経営方針・経営戦略の策定、執行、重要事項の決定、執行役員の執行業務の決定、執行状況の監督等を行う機関として月1回の定例の他、必要に応じ随時開催しております。取締役会におきましては経営方針、業務執行に係る情報の共有化とコントロール機能が作動する様にすると共に監督の強化に努めております。また、取締役会及び主要会議には、常勤監査役が常時出席し取締役の業務執行状況を監視しております。

b 常務会は常務取締役以上の役員を構成メンバーとし、月1回開催しております。常務会では、取締役会付議事項を含む重要事項について幅広い観点より検討審議すると共に必要に応じ担当部署の責任者の出席も求め、効率的で機動性のある業務執行体制を確保しております。

c 当社は、平成19年6月より業務執行においての最適な体制を構築すべく執行役員制度を導入しております。従来取締役が担っておりました経営方針の策定、執行等のうち業務の執行機能を分離し、順次経営の効率性と健全性を高めてまいります。

《内部管理体制》



(ロ) 内部統制システムの整備の状況

a 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

取締役の職務執行については毎月開催される取締役会において報告され、法令遵守による業務執行の周知徹底を図ると共に、各取締役の業務執行状況について相互牽制機能が働く体制をとっております。毎月開催される常務会及び事業部長会議の場でもトレース、チェックを行う体制を敷いております。

また、監査役においてもその職責に基づき取締役の職務執行に関する順法状況を検証する体制をとっております。

b その他、会社の業務の適正を確保するために必要なものとして法務省令で定める体制の整備

(a) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に対する体制

取締役はその職務の執行に係る文書その他の情報につき当社の情報管理規程、文書管理規程等に従い適切に保存及び管理を行っております。

(b) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

自然災害、事故、法令違反等潜在的に存在する普遍的リスクについては防災マニュアル、コンプライアンスマニュアルを制定し、保険の付保や研修、監査室の監査を通じその防止と強化に取り組んでおります。有事においては社長を本部長とする対策本部を設置し対応策等危機管理にあたることとしております。事業リスクについては業務を担当する取締役のほか執行担当者は自己の担当領域についてのリスク管理体制を構築する責任と権限を有しております。また、リスク管理規程を定め、損失の危機管理を行うとともに、社長を委員長とするリスクマネジメント委員会を設置し定例的にリスクの点検、評価、対策等を管理、監督しております。

(c) 取締役の職務が効率的に行なわれることを確保するための体制

当社は取締役会において取締役会規程に基づき、経営の基本方針その他経営に関する重要事項を決定し、業務執行状況を監督するものとしております。

あわせて、取締役会の決定事項に基づき迅速かつ効率的に業務を執行するため、執行役員制度を導入し、業務執行権限を委譲しております。

取締役は定時及び臨時の取締役会においての業務執行報告により、その執行状況を適切に監視し、業務執行の適正及び効率性を確保しております。

(d) 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社はコンプライアンス規程を制定し全ての使用人に周知徹底を図ると同時に、高い倫理観を持って事業を運営していくことが不可欠との認識のもと、研修による啓蒙活動や、監査室でのトレーズ、チェックの充実・強化を図っております。

(e) 当社ならびに子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社ならびに子会社からなる当社グループは業務の適法性、企業倫理性を確保すべく子会社管理規程を制定し、グループ全体として社会的責任を果たすべく体制を整備しております。

子会社管理については、各関連事業部と企画室が連携してあたっております。

(f) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合には、監査役の職務が適切に行われるよう、適切に対応することとしております。

(g) 前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項

当該使用人を置くこととなった場合には、当該使用人の任命、異動、評価、懲戒については、監査役の意見を尊重した上で行うものとし、当該使用人の取締役からの独立性を確保いたします。

(h) 監査役が監査が実効的に実施されるための体制

取締役及び使用人の監査役会並びに監査役への報告を含め監査役監査が実効的に実施される体制を確固たるものにしております。

(i) 財務報告に係る内部統制報告制度(J-SOX)への対応

当社及び当社グループは、財務報告の信頼性を確保するため内部統制方針書を策定し、有効且つ効率的な財務報告に係る全社統制、業務プロセス等、内部統制の整備、運用、評価を行っております。

## 内部監査及び監査役監査

### イ 内部監査の状況

全社的な組織の質的向上を図るべく監査室を設置しコンプライアンスの徹底並びに内部業務監査を強化しております。

内部監査については、監査室(5名)において当社および子会社に対する業務監査、会計監査を実施しております。内部監査は年度計画に基づき実施する定例監査と、必要に応じ会長、社長からの特命事項について実施する特別監査があり、監査結果は毎月監査報告会を開催し、常勤監査役同席のもと会長、社長に報告しております。定例監査については、過去の指摘事項の改善状況を踏まえ、主要な監査対象先を1年で一巡する体制を確保しております。なお、内部監査を通じて検出された会計・財務に関わる重要な事象に関しては管理本部並びに会計監査人へ情報提供し、指導、助言を得る等相互連携に努めております。

また、各事業所監査を通じて把握した諸事象については取締役会にも報告され、啓蒙と改善を期しております。

### ロ 監査役監査の状況

監査役会は社外監査役2名を含む3名で構成されており、監査役会を原則月1回開催し、経営・倫理両面での監査体制を強化しております。また、全員が取締役会に出席し客観的な立場でその都度適切な提言・助言を行っております。社外監査役2名は公認会計士1名、弁護士1名からなり会計面や法的側

面等の立場での提言等を含め専門分野からの監視機能の強化も図っております。また、常勤監査役は主要会議に出席し、取締役の業務執行状況を監視できる体制を執るとともに、各事業所に対する業務監査および子会社監査を実施し、その結果を監査役会に報告しております。監査役会としては監査要旨も踏まえ当社の課題について会長、社長と定期的に意見交換会を開催しております。

#### 社外取締役及び社外監査役

当社の社外役員は、社外監査役2名であり、社外取締役は現在、選任していません。

社外監査役 衣目修三氏との間には人的関係、資金的関係または取引関係その他の利害関係等はありません。

社外監査役 野村公平氏は弁護士であり、当社の顧問弁護士が所属する事務所の代表の地位にありますが同事務所との取引はありません。

当社は社外取締役を選任していませんが、社外監査役2名は、それぞれ取締役会に出席し、識見及び経験を活かした意見を積極的に表明しており、これにより取締役会の判断に牽制を働かせております。

社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針につきましては特段定めておりませんが、選任にあたっては証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準を参考にし、取締役の法令順守、経営管理に対する監査に必要な知識と経験を有し、一般株主との利益相反が生じる恐れがないことを基本的な考え方としており、社外監査役両氏を株式会社東京証券取引所の定める独立役員として、同取引所に対し届出を行っております。

#### 役員の報酬等

##### イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	186	132		47	6	10
監査役 (社外監査役を除く。)	14	11		3		1
社外役員	7	7				2

(注) 取締役の報酬等の総額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。

##### ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載していません。

##### ハ 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

該当事項はありません。

## 二 役員の報酬等の額の決定に関する方針

### a 基本方針

当社の取締役及び監査役の報酬等については、当社及び当社グループの企業業績と株主価値の持続的向上に向けた取締役及び監査役の機能を十分に発揮するために必要な報酬額を、株主総会で承認いただいた範囲内において一定の基準に基づき決定しております。

### b 役員報酬等の内容

#### (a) 取締役報酬

取締役の報酬は、役職位を基本としておりますが、業績の一層の向上を図るため、業績連動性を重視した制度としております。

##### ・基本報酬

役職位に応じた固定報酬と、前年度の業績達成度に応じた変動報酬からなり、経営環境等を考慮して適正な水準で設定しております。

##### ・株式取得型報酬

役職別に定める割合を乗じた金額を支給し、一定の額を株式累積投資制度により当社株式購入に充てさせていただきます。

##### ・賞与

業績達成度を基本に経営環境、配当額等を総合的に勘案して決定しております。なお、報酬水準につきましては、会社の業績や経営内容、役員本人の成果・責任の実態などを考慮し毎年見直しを行っております。

#### (b) 監査役報酬

監査役は、独立した立場から取締役の職務執行を監査する役割であります。当社グループの企業業績と株主価値の持続的向上の実現という点では取締役と共通の目的を持っていることから、固定給に加え、常勤監査役に対しては業績に応じた変動給を一部取り入れております。

##### ・基本報酬

本人の経験・見識や役割等に応じた固定報酬に加え、常勤監査役に対しては、前年度の業績達成度に応じた変動報酬を支給いたします。

##### ・賞与

常勤監査役に対して業績達成度を基本に経営環境、配当額等を総合的に勘案して決定しております。

### 株式の保有状況

#### イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数	45銘柄
貸借対照表計上額の合計額	953百万円

#### ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、保有区分、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)  
 特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)りそなホールディングス	142,600	59	取引関係の維持・強化のため
(株)南都銀行	120,000	48	取引関係の維持・強化のため
大東建託(株)	6,347	46	取引関係の維持・強化のため
(株)淀川製鋼所	130,000	46	取引関係の維持・強化のため
阪和興業(株)	111,342	43	取引関係の維持・強化のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	199,000	28	取引関係の維持・強化のため
(株)シンニッタン	55,100	27	取引関係の維持・強化のため
住金物産(株)	102,000	23	取引関係の維持・強化のため
(株)ササクラ	42,000	21	取引関係の維持・強化のため
(株)アンリツ	18,000	19	取引関係の維持・強化のため
S R G タカミヤ(株)	20,000	16	取引関係の維持・強化のため
(株)山善	23,000	16	取引関係の維持・強化のため
(株)大真空	53,000	15	取引関係の維持・強化のため
東武鉄道(株)	34,000	15	取引関係の維持・強化のため
(株)キムラ	48,000	14	取引関係の維持・強化のため
日本管財(株)	8,100	12	取引関係の維持・強化のため
J F E ホールディングス(株)	6,450	12	取引関係の維持・強化のため
大和ハウス工業(株)	4,546	10	取引関係の維持・強化のため
上新電機(株)	10,000	8	取引関係の維持・強化のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	16,620	7	取引関係の維持・強化のため
新日本製鉄(株)	30,000	7	取引関係の維持・強化のため
(株)ナフコ	5,000	7	取引関係の維持・強化のため
(株)マキヤ	15,000	6	取引関係の維持・強化のため
(株)ワキタ	8,250	4	取引関係の維持・強化のため
T & D ホールディングス(株)	4,200	4	取引関係の維持・強化のため
(株)廣濟堂	12,600	3	取引関係の維持・強化のため
住友不動産(株)	1,477	3	取引関係の維持・強化のため
(株)コメリ	500	1	取引関係の維持・強化のため
双日(株)	4,600	0	取引関係の維持・強化のため
D C M ホールディングス(株)	1,000	0	取引関係の維持・強化のため

(注) (株)りそなホールディングス以外の銘柄は、当事業年度における貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下  
 ではありますが、上位30銘柄について記載しております。



( 当事業年度 )  
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)りそなホールディングス	142,600	73	取引関係の維持・強化のため
大東建託(株)	6,550	54	取引関係の維持・強化のため
(株)南都銀行	120,000	52	取引関係の維持・強化のため
(株)淀川製鋼所	130,000	44	取引関係の維持・強化のため
阪和興業(株)	113,681	41	取引関係の維持・強化のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	199,000	41	取引関係の維持・強化のため
住金物産(株)	102,000	34	取引関係の維持・強化のため
(株)アンリツ	18,000	26	取引関係の維持・強化のため
S R G タカミヤ(株)	20,000	24	取引関係の維持・強化のため
(株)サクラ	42,000	24	取引関係の維持・強化のため
(株)シンニッタン	55,100	24	取引関係の維持・強化のため
東武鉄道(株)	34,000	18	取引関係の維持・強化のため
大和ハウス工業(株)	9,903	18	取引関係の維持・強化のため
(株)大真空	53,000	15	取引関係の維持・強化のため
(株)山善	23,000	15	取引関係の維持・強化のため
(株)キムラ	48,000	14	取引関係の維持・強化のため
J F E ホールディングス(株)	6,500	12	取引関係の維持・強化のため
日本管財(株)	8,100	12	取引関係の維持・強化のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	16,620	9	取引関係の維持・強化のため
上新電機(株)	10,000	9	取引関係の維持・強化のため
(株)ナフコ	5,000	8	取引関係の維持・強化のため
(株)ワキタ	8,250	8	取引関係の維持・強化のため
新日鐵住金(株)	30,000	7	取引関係の維持・強化のため
(株)マキヤ	15,000	6	取引関係の維持・強化のため
住友不動産(株)	1,758	6	取引関係の維持・強化のため
T & D ホールディングス(株)	4,200	4	取引関係の維持・強化のため
(株)廣濟堂	12,600	4	取引関係の維持・強化のため
(株)コメリ	500	1	取引関係の維持・強化のため
東建コーポレーション(株)	200	1	取引関係の維持・強化のため
D C M ホールディングス(株)	1,000	0	取引関係の維持・強化のため

(注) (株)りそなホールディングス以外の銘柄は、当事業年度における貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下であります。上位30銘柄について記載しております。

## 八 保有目的が純投資目的である投資株式 該当事項はありません。

### 会計監査の状況

当社は株主総会の承認を得て、有限責任 あずさ監査法人と監査契約を締結し、会社法の計算書類、金融商品取引法の財務諸表の監査を受けておりますと共に、重要な事案につきましてはその都度指導を受ける等適時適正開示を常に意識して対応しております。監査結果は当社取締役会、監査役会に対して報告されております。

当期において業務を執行した公認会計士の氏名、監査業務に係る補助者の構成については以下のとおりであります。

#### ・業務を執行した公認会計士の氏名

原田 大輔(有限責任 あずさ監査法人)

神田 正史(有限責任 あずさ監査法人)

桃原 一也(有限責任 あずさ監査法人)

継続監査年数については7年以内であるため記載を省略しております。

#### ・会計監査業務に係る補助者の構成

公認会計士9名、その他7名

監査役監査と会計監査の相互連携については会計監査人の監査に適時監査役が立ち会っております。

### 取締役会で決議できる株主総会決議事項

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず、取締役会の決議により定める旨を定款に定めております。これは剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

### 取締役の定数

当社の取締役は、15名以内とする旨を定款に定めております。

### 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び選任決議は、累積投票によらない旨を定款に定めております。

### 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議の要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	34		34	
連結子会社				
計	34		34	

【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士に対する監査報酬の決定方針は、当該会計監査人の継続監査年数、監査体制・監査能力等を総合的に勘案して定めております。

## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成24年3月21日から平成25年3月20日まで)及び事業年度(平成24年3月21日から平成25年3月20日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みとして、公益財団法人財務会計基準機構へ加入するとともに、同機構や監査法人等の行う研修への参加や会計専門誌の定期購読等を行い、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備しております。

## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月20日)	当連結会計年度 (平成25年3月20日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,705,205	3,844,854
受取手形及び売掛金	3 8,954,795	3 9,337,346
商品及び製品	3,730,577	3,969,412
仕掛品	449,491	512,936
原材料	932,787	1,016,414
繰延税金資産	295,031	350,585
その他	247,342	504,881
貸倒引当金	29,658	19,683
流動資産合計	18,285,574	19,516,746
固定資産		
有形固定資産		
レンタル資産	16,427,942	16,911,867
減価償却累計額	14,400,227	14,864,935
レンタル資産（純額）	2,027,715	2,046,931
建物及び構築物	2 4,960,341	2 5,058,240
減価償却累計額	3,277,903	3,435,781
建物及び構築物（純額）	1,682,437	1,622,458
機械装置及び運搬具	906,044	1,173,584
減価償却累計額	740,688	804,089
機械装置及び運搬具（純額）	165,355	369,495
土地	2 2,034,303	2 1,977,858
その他	2,122,105	2,274,410
減価償却累計額	1,866,458	1,992,471
減損損失累計額	56,766	56,062
その他（純額）	198,880	225,875
有形固定資産合計	6,108,693	6,242,620
無形固定資産	68,278	57,407
投資その他の資産		
投資有価証券	1 1,532,012	1 2,326,847
長期貸付金	17,103	9,557
破産更生債権等	8,399	7,695
繰延税金資産	110,545	92,878
その他	1 1,353,983	1 1,032,980
貸倒引当金	10,499	9,595
投資その他の資産合計	3,011,545	3,460,364
固定資産合計	9,188,517	9,760,392
資産合計	27,474,092	29,277,139

	前連結会計年度 (平成24年3月20日)	当連結会計年度 (平成25年3月20日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3 5,518,395	3 5,102,781
短期借入金	2 2,695,040	2 2,079,324
未払法人税等	824,321	876,046
賞与引当金	470,140	529,769
リコール損失引当金	-	180,000
その他	718,501	869,926
流動負債合計	10,226,399	9,637,847
固定負債		
長期借入金	2 2,750,015	2 3,607,025
退職給付引当金	85,021	85,718
役員退職慰労引当金	218,284	212,159
関係会社事業損失引当金	137,210	137,210
その他	299,340	321,117
固定負債合計	3,489,871	4,363,230
負債合計	13,716,271	14,001,077
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,571,558	5,571,558
資本剰余金	3,306,759	3,306,759
利益剰余金	5,361,299	6,541,478
自己株式	562,495	562,496
株主資本合計	13,677,121	14,857,299
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	41,124	115,612
繰延ヘッジ損益	68,403	174,971
為替換算調整勘定	29,647	90,834
その他の包括利益累計額合計	79,879	381,418
新株予約権	820	820
少数株主持分	-	36,523
純資産合計	13,757,821	15,276,061
負債純資産合計	27,474,092	29,277,139

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成23年3月21日 至平成24年3月20日)	当連結会計年度 (自平成24年3月21日 至平成25年3月20日)
<b>売上高</b>		
商品及び製品売上高	19,884,135	21,691,969
レンタル収入	12,868,901	13,325,244
売上高合計	32,753,036	35,017,213
<b>売上原価</b>		
商品及び製品売上原価	13,566,418	14,846,166
レンタル原価	9,159,356	9,141,148
売上原価合計	<sup>1</sup> 22,725,775	<sup>1</sup> 23,987,314
<b>売上総利益</b>	10,027,261	11,029,899
販売費及び一般管理費	<sup>2</sup> 7,790,832	<sup>2</sup> 8,302,932
<b>営業利益</b>	2,236,429	2,726,966
<b>営業外収益</b>		
受取利息	3,162	4,239
受取地代家賃	61,344	58,887
為替差益	-	173,921
作業屑等売却益	97,249	49,563
持分法による投資利益	6,788	82,727
その他	60,517	65,535
営業外収益合計	229,062	434,875
<b>営業外費用</b>		
支払利息	77,960	65,979
支払地代家賃	24,460	24,349
為替差損	129,374	-
その他	18,889	26,289
営業外費用合計	250,685	116,617
<b>経常利益</b>	2,214,806	3,045,223
<b>特別利益</b>		
有形固定資産売却益	<sup>3</sup> 693	<sup>3</sup> 64
貸倒引当金戻入額	41,187	-
持分変動利益	-	3,570
特別利益合計	41,881	3,635
<b>特別損失</b>		
有形固定資産除売却損	<sup>4</sup> 22,892	<sup>4</sup> 5,888
無形固定資産除売却損	-	<sup>5</sup> 200
債権放棄損	7,000	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	32,667	-
リコール損失引当金繰入額	-	180,000
減損損失	<sup>6</sup> 53,070	<sup>6</sup> 13,668
特別損失合計	115,629	199,757
税金等調整前当期純利益	2,141,058	2,849,101
法人税、住民税及び事業税	1,016,965	1,350,653
法人税等調整額	63,294	131,110
法人税等合計	953,671	1,219,542
少数株主損益調整前当期純利益	1,187,387	1,629,559
少数株主損失( )	-	4,089
<b>当期純利益</b>	1,187,387	1,633,648

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 3月21日 至 平成24年 3月20日)	当連結会計年度 (自 平成24年 3月21日 至 平成25年 3月20日)
少数株主損益調整前当期純利益	1,187,387	1,629,559
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	53,379	72,925
繰延ヘッジ損益	98,385	106,567
為替換算調整勘定	22,415	124,970
持分法適用会社に対する持分相当額	754	1,563
その他の包括利益合計	130,104	306,026
包括利益	1,317,492	1,935,586
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,317,492	1,935,187
少数株主に係る包括利益	-	398



## 【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 3月21日 至 平成24年 3月20日)	当連結会計年度 (自 平成24年 3月21日 至 平成25年 3月20日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	5,571,558	5,571,558
当期末残高	5,571,558	5,571,558
<b>資本剰余金</b>		
当期首残高	3,306,759	3,306,759
当期末残高	3,306,759	3,306,759
<b>利益剰余金</b>		
当期首残高	4,493,991	5,361,299
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	320,079	426,772
当期純利益	1,187,387	1,633,648
連結範囲の変更に伴う減少	-	26,696
<b>当期変動額合計</b>	867,307	1,180,179
<b>当期末残高</b>	5,361,299	6,541,478
<b>自己株式</b>		
当期首残高	562,495	562,495
<b>当期変動額</b>		
自己株式の取得	-	0
<b>当期変動額合計</b>	-	0
<b>当期末残高</b>	562,495	562,496
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	12,809,813	13,677,121
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	320,079	426,772
当期純利益	1,187,387	1,633,648
連結範囲の変更に伴う減少	-	26,696
自己株式の取得	-	0
<b>当期変動額合計</b>	867,307	1,180,178
<b>当期末残高</b>	13,677,121	14,857,299
<b>その他の包括利益累計額</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	13,009	41,124
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	54,134	74,488
<b>当期変動額合計</b>	54,134	74,488
<b>当期末残高</b>	41,124	115,612
<b>繰延ヘッジ損益</b>		
当期首残高	29,982	68,403
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	98,385	106,567
<b>当期変動額合計</b>	98,385	106,567
<b>当期末残高</b>	68,403	174,971

	前連結会計年度 (自 平成23年 3月21日 至 平成24年 3月20日)	当連結会計年度 (自 平成24年 3月21日 至 平成25年 3月20日)
<b>為替換算調整勘定</b>		
当期首残高	7,232	29,647
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	22,415	120,482
当期変動額合計	22,415	120,482
当期末残高	29,647	90,834
<b>その他の包括利益累計額合計</b>		
当期首残高	50,225	79,879
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	130,104	301,538
当期変動額合計	130,104	301,538
当期末残高	79,879	381,418
<b>新株予約権</b>		
当期首残高	-	820
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	820	-
当期変動額合計	820	-
当期末残高	820	820
<b>少数株主持分</b>		
当期首残高	-	-
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	36,523
当期変動額合計	-	36,523
当期末残高	-	36,523
<b>純資産合計</b>		
当期首残高	12,759,588	13,757,821
当期変動額		
剰余金の配当	320,079	426,772
当期純利益	1,187,387	1,633,648
連結範囲の変更に伴う減少	-	26,696
自己株式の取得	-	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	130,924	338,061
当期変動額合計	998,232	1,518,240
当期末残高	13,757,821	15,276,061

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 3月21日 至 平成24年 3月20日)	当連結会計年度 (自 平成24年 3月21日 至 平成25年 3月20日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	2,141,058	2,849,101
減価償却費	1,774,899	1,851,143
減損損失	53,070	13,668
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	32,667	-
債権放棄損	7,000	-
持分変動損益（は益）	-	3,570
貸倒引当金の増減額（は減少）	39,992	4,201
賞与引当金の増減額（は減少）	50,231	59,506
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	3,631	6,125
退職給付引当金の増減額（は減少）	54,118	35,591
リコール損失引当金の増減額（は減少）	-	180,000
受取利息及び受取配当金	22,150	27,013
支払利息	77,960	65,979
為替差損益（は益）	1,011	38
持分法による投資損益（は益）	6,788	82,727
有形固定資産除売却損益（は益）	21,935	5,711
無形固定資産除売却損益（は益）	-	200
売上債権の増減額（は増加）	1,027,602	386,325
破産更生債権等の増減額（は増加）	5,712	389
たな卸資産の増減額（は増加）	976,594	358,947
仕入債務の増減額（は減少）	1,167,891	545,154
未払消費税等の増減額（は減少）	18,121	50,784
その他	148,769	95,406
小計	3,439,424	3,793,379
利息及び配当金の受取額	35,558	39,087
利息の支払額	78,243	66,580
法人税等の支払額	551,223	1,298,928
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,845,516	2,466,957
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	1,104	1,202
有形固定資産の取得による支出	1,884,553	1,877,040
有形固定資産の売却による収入	977	42,856
無形固定資産の取得による支出	45,200	8,975
投資有価証券の取得による支出	44,262	84,606
投資有価証券の売却による収入	4,380	-
非連結子会社への出資による支出	385,750	549,699
貸付けによる支出	25,400	20,450
貸付金の回収による収入	34,996	27,996
敷金及び保証金の差入による支出	3,395	34,046
敷金及び保証金の回収による収入	53,298	67,287
建設協力金の支払による支出	-	134,314
その他	8,408	15,192
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,287,606	2,557,002

	前連結会計年度 (自 平成23年 3月21日 至 平成24年 3月20日)	当連結会計年度 (自 平成24年 3月21日 至 平成25年 3月20日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（ は減少）	834,612	850,000
長期借入れによる収入	1,500,000	3,300,000
長期借入金の返済による支出	2,550,352	2,208,706
少数株主からの払込みによる収入	-	39,695
配当金の支払額	320,392	425,829
その他	4,326	12,817
財務活動によるキャッシュ・フロー	540,457	157,657
現金及び現金同等物に係る換算差額	7,439	64,298
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	10,012	183,403
現金及び現金同等物の期首残高	3,684,423	3,694,436
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	321,849
現金及び現金同等物の期末残高	1 3,694,436	1 3,832,881

## 【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

### 1. 連結の範囲に関する事項

#### (1) 連結子会社

連結子会社は、アルインコ富山(株)、東京仮設ビルト(株)、蘇州アルインコ金属製品有限公司、(株)光モール、オリエンタル機材(株)、アルインコ建設機材レンタル(蘇州)有限公司の6社であります。

なお、前連結会計年度まで非連結子会社であったアルインコ建設機材レンタル(蘇州)有限公司は、重要性が増したため、当連結会計年度から連結の範囲に含めております。

#### (2) 非連結子会社

非連結子会社の名称

瀋陽アルインコ電子有限公司、アルインコ(タイランド)(株)

連結の範囲から除いた理由

瀋陽アルインコ電子有限公司は小規模会社であり、アルインコ(タイランド)(株)は開業準備中であり、いずれも総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等に及ぼす影響が軽微であるため、連結の範囲から除外しております。

### 2. 持分法の適用に関する事項

#### (1) 持分法適用の関連会社

関連会社である中央ビルト工業(株)について持分法を適用しております。

#### (2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社の名称

瀋陽アルインコ電子有限公司、アルインコ(タイランド)(株)及び寧波特靈通金属製品有限公司は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

#### (3) 持分法適用会社の中央ビルト工業(株)は、3月31日が決算日であります。連結財務諸表の作成にあたり、平成24年12月31日現在の四半期財務諸表を使用しております。連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、蘇州アルインコ金属製品有限公司及びアルインコ建設機材レンタル(蘇州)有限公司の決算日は、12月31日であります。

連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

### 4. 会計処理基準に関する事項

#### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

デリバティブ

時価法

たな卸資産

主として総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

国内連結会社は主として定率法、在外連結子会社は定額法によっております。

なお、耐用年数は次のとおりであります。

レンタル資産.....主として5年

建物及び構築物.....2～50年

機械装置及び運搬具.....2～15年

その他の有形固定資産...2～20年

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法であります。

また、のれんについては、原則として発生時以降5年間で均等償却しております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日がリース取引会計基準の改正適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権及び破産更生債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与の支出に備えるため、期間業績に応じた支給見込額を計上しております。

リコール損失引当金

当社製品に係る市場回収処置（リコール）に伴う損失見込額を計上しております。

退職給付引当金

国内連結会社は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により、翌連結会計年度から費用処理しております。

#### 役員退職慰労引当金

連結財務諸表提出会社は、役員退職慰労金の支出に備えるため「役員退職慰労金規程」（内規）による連結会計年度末要支給額を計上しております。

なお、平成21年6月18日開催の定時株主総会終結の時をもって、役員退職慰労金制度を廃止したことに伴い、制度廃止までの在任期間に対応する相当額を計上しております。

#### 関係会社事業損失引当金

関係会社の事業の損失に備えるため、連結会社が負担することとなる損失見込額を計上しております。

### (4) 重要なヘッジ会計の方法

#### ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。なお、振当処理の要件を満たしている為替予約等については振当処理に、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理によっております。

#### ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段	ヘッジ対象
為替予約取引	商品及び原材料の輸入による外貨建金銭債務及び予定取引
金利スワップ取引	長期借入金の利息

#### ヘッジ方針

デリバティブ取引に関する社内規程に基づき、為替変動リスク及び金利変動リスクを一定の範囲内でヘッジしております。

#### ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動、キャッシュ・フローとヘッジ手段の間に高い相関関係があることを確認し、有効性の評価としております。ただし、一部の金利スワップ取引においては、契約の内容等によりヘッジに高い有効性が明らかに認められる場合については有効性の判定を省略しております。

また為替予約においては、取引すべてが将来の購入予定に基づくものであり、実行の可能性が極めて高いため有効性の判定は省略しております。

### (5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資であります。

### (6) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しております。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

- 1 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月20日)	当連結会計年度 (平成25年3月20日)
投資有価証券(株式)	625,120千円	1,228,971千円
投資その他の資産その他 (出資金)	390,879千円	21,868千円

- 2 債務の担保に供している資産及び担保付債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月20日)	当連結会計年度 (平成25年3月20日)
(担保資産の種類)		
建物及び構築物	460,517千円	331,210千円
土地	1,160,287千円	1,071,178千円
計	1,620,804千円	1,402,389千円

	前連結会計年度 (平成24年3月20日)	当連結会計年度 (平成25年3月20日)
(担保付債務)		
短期借入金	280,780千円	340,000千円
長期借入金	1,445,000千円	1,375,000千円
計	1,725,780千円	1,715,000千円



### 3 連結会計年度末日満期手形の処理方法

期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成24年3月20日)	当連結会計年度 (平成25年3月20日)
受取手形	63,009千円	49,816千円
支払手形	647,243千円	678,760千円

#### (連結損益計算書関係)

#### 1 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額

	前連結会計年度 (自 平成23年3月21日 至 平成24年3月20日)	当連結会計年度 (自 平成24年3月21日 至 平成25年3月20日)
売上原価	11,246千円	94,964千円

#### 2 販売費及び一般管理費の主要な費目及びその金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年3月21日 至 平成24年3月20日)	当連結会計年度 (自 平成24年3月21日 至 平成25年3月20日)
運送費及び保管費	1,065,507千円	1,148,090千円
人件費	3,617,444千円	3,874,467千円
賞与引当金繰入額	378,089千円	424,046千円
退職給付費用	218,885千円	279,854千円
貸倒引当金繰入額	1,195千円	4,201千円
減価償却費	112,463千円	103,791千円

#### 3 有形固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年3月21日 至 平成24年3月20日)	当連結会計年度 (自 平成24年3月21日 至 平成25年3月20日)
機械装置及び運搬具	457千円	64千円
有形固定資産その他	236千円	- 千円
計	693千円	64千円

#### 4 有形固定資産除売却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年3月21日 至 平成24年3月20日)	当連結会計年度 (自 平成24年3月21日 至 平成25年3月20日)
レンタル資産	13,515千円	4,239千円
建物及び構築物	3,901千円	996千円
機械装置及び運搬具	3,531千円	287千円
有形固定資産その他	1,734千円	252千円
解体撤去費用	209千円	112千円
計	22,892千円	5,888千円

#### 5 無形固定資産除売却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年3月21日 至 平成24年3月20日)	当連結会計年度 (自 平成24年3月21日 至 平成25年3月20日)
無形固定資産	- 千円	200千円

## 6 減損損失

前連結会計年度(自 平成23年3月21日 至 平成24年3月20日)

当社グループは内部管理上採用している事業区分を基準として資産のグルーピングを行っており、当連結会計年度におきましては以下の資産グループについて減損損失を計上しております。なお、遊休資産については、個々の資産ごとに減損損失の認識の判定及び測定を行っております。

用途	種類	場所	金額(千円)
遊休資産	土地	栃木県那須郡那須町	6,100
賃貸資産	土地	岩手県岩手郡雫石町	46,970

遊休資産については、現時点において今後稼動する見込が乏しいと判断したことから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

賃貸資産については、収益性の低下により遊休状態となっていることから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

減損損失の内訳は土地53,070千円であります。

なお、減損損失の測定における回収可能価額は正味売却額を使用し、不動産鑑定評価額に基づいて評価しております。

当連結会計年度(自 平成24年3月21日 至 平成25年3月20日)

当社グループは内部管理上採用している事業区分を基準として資産のグルーピングを行っており、当連結会計年度におきましては以下の資産グループについて減損損失を計上しております。なお、遊休資産については、個々の資産ごとに減損損失の認識の判定及び測定を行っております。

用途	種類	場所	金額(千円)
遊休資産	土地	岩手県岩手郡雫石町	13,668

遊休資産については、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

減損損失の内訳は土地13,668千円であります。

なお、減損損失の測定における回収可能価額は売買契約に基づく正味売却額により算定しております。

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自 平成24年3月21日 至 平成25年3月20日)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金	
当期発生額	106,376千円
組替調整額	- 千円
税効果調整前	106,376千円
税効果額	33,451千円
その他有価証券評価差額金	72,925千円
繰延ヘッジ損益	
当期発生額	295,387千円
組替調整額	129,047千円
税効果調整前	166,340千円
税効果額	59,772千円
繰延ヘッジ損益	106,567千円
為替換算調整勘定	
当期発生額	124,970千円
持分法適用会社に対する持分相当額	
当期発生額	1,563千円
その他の包括利益合計	306,026千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成23年3月21日 至 平成24年3月20日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	19,509,326			19,509,326

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	1,727,130			1,727,130

3. 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(千円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	平成23年9月6日取締役会決議分 新株予約権					820	
合計						820	

#### 4. 配当に関する事項

##### (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年5月2日 取締役会	普通株式	195,604	11.0	平成23年3月20日	平成23年6月2日
平成23年10月21日 取締役会	普通株式	124,475	7.0	平成23年9月20日	平成23年11月24日

##### (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年5月2日 取締役会	普通株式	利益剰余金	231,168	13.0	平成24年3月20日	平成24年6月4日

当連結会計年度(自平成24年3月21日至平成25年3月20日)

##### 1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	19,509,326			19,509,326

##### 2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	1,727,130	1		1,727,131

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買い取りによる増加 1株

##### 3. 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる 株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (千円)
			当連結会計 年度期首	増加	減少	当連結 会計年度末	
提出会社	平成23年9月6日取締役会 決議分 新株予約権						820
合計							820

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年5月2日 取締役会	普通株式	231,168	13.0	平成24年3月20日	平成24年6月4日
平成24年10月19日 取締役会	普通株式	195,604	11.0	平成24年9月20日	平成24年11月26日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年5月2日 取締役会	普通株式	利益剰余金	248,950	14.0	平成25年3月20日	平成25年6月4日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成23年3月21日 至 平成24年3月20日)	当連結会計年度 (自 平成24年3月21日 至 平成25年3月20日)
現金及び預金勘定	3,705,205千円	3,844,854千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	10,769千円	11,972千円
現金及び現金同等物	3,694,436千円	3,832,881千円

(リース取引関係)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

1. リース資産の内容

有形固定資産

建設機材関連事業等における生産設備（機械装置及び運搬具）及び全社資産におけるコンピュータ設備（有形固定資産その他）であります。

2. リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

リース物件に関する会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

1. リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月20日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械装置及び運搬具	709,823	331,607	378,215
有形固定資産その他	3,771	2,963	808
合計	713,594	334,570	379,024

なお、取得価額相当額は、有形固定資産の期末残高等に占める未経過リース料期末残高の割合が低いため、一部のリース物件を除き、支払利子込み法により算定しております。

(単位：千円)

	当連結会計年度 (平成25年3月20日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械装置及び運搬具	626,552	348,995	277,557
有形固定資産その他	3,771	3,502	269
合計	630,324	352,497	277,826

なお、取得価額相当額は、有形固定資産の期末残高等に占める未経過リース料期末残高の割合が低いため、一部のリース物件を除き、支払利子込み法により算定しております。

2. 未経過リース料期末残高相当額

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月20日)	当連結会計年度 (平成25年3月20日)
1年以内	90,872	72,538
1年超	298,571	216,421
合計	389,444	288,960

なお、未経過リース料期末残高相当額は、有形固定資産の期末残高等に占める未経過リース料期末残高の割合が低いため、一部のリース物件を除き、支払利子込み法により算定しております。

3. 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年3月21日 至 平成24年3月20日)	当連結会計年度 (自 平成24年3月21日 至 平成25年3月20日)
支払リース料	137,103	98,123
減価償却費相当額	128,455	89,475
支払利息相当額	11,133	9,361

4. 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、主として残存価額を零とする定額法によっております。

5. 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、製造販売及びレンタル事業を行うための設備投資計画等を反映した資金計画に基づき、事業に必要な資金を調達しております。一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を金融機関等より調達しております。デリバティブ取引については、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、恒常的に同じ外貨建ての買掛金残高の範囲内にあります。投資有価証券である株式等は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に時価を把握しております。また、取引先企業等に対し、長期貸付を行っております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。また、営業債務の一部には、商品等の輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されておりますが、先物為替予約を利用して一部をヘッジしております。

借入金のうち、短期借入金及び長期借入金は、主に営業取引に係る資金調達であります。長期借入金のなかには、変動金利のものが金利の変動リスクに晒されておりますが、一部はデリバティブ取引（金利スワップ取引）を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約取引、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項4 会計処理基準に関する事項」に記載されている「(4) 重要なヘッジ会計の方法」をご覧ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、与信管理規程に従い、営業債権等について、審査部及び各事業本部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の与信管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。



市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、外貨建ての営業債務について、通貨別月別に把握された為替の変動リスクに対して、原則として先物為替予約を利用してヘッジしております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引については、デリバティブ管理規程に基づき、財務部が取引、記帳及び契約先と残高照合等を行っており、取引実績について定期的に取締役会に報告しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払を実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各事業部からの報告に基づき適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性を維持すること等により流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。（注2）参照）

前連結会計年度(平成24年3月20日)

（単位：千円）

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	3,705,205	3,705,205	
(2) 受取手形及び売掛金	8,954,795	8,954,795	
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	654,460	654,460	
関連会社株式	625,120	672,830	47,710
(4) 長期貸付金	17,103	17,103	
(5) 破産更生債権等	8,399		
貸倒引当金（ 1 ）	8,399		
	0	0	
資産計	13,956,685	14,004,396	47,710
(1) 支払手形及び買掛金	5,518,395	5,518,395	
(2) 短期借入金	2,695,040	2,695,040	
(3) 長期借入金	2,750,015	2,789,039	39,024
負債計	10,963,450	11,002,474	39,024
デリバティブ取引（ 2 ）	114,963	114,963	

（ 1 ）破産更生債権等に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

（ 2 ）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については（ ）で表示しております。

当連結会計年度(平成25年3月20日)

(単位：千円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	3,844,854	3,844,854	
(2) 受取手形及び売掛金	9,337,346	9,337,346	
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	765,443	765,443	
関連会社株式	696,011	792,885	96,874
(4) 長期貸付金	9,557	9,557	
(5) 破産更生債権等	7,695		
貸倒引当金( 1 )	7,695		
	0	0	
資産計	14,653,213	14,750,087	96,874
(1) 支払手形及び買掛金	5,102,781	5,102,781	
(2) 短期借入金	2,079,324	2,079,324	
(3) 長期借入金	3,607,025	3,672,964	65,939
負債計	10,789,130	10,855,069	65,939
デリバティブ取引( 2 )	281,304	281,304	

( 1 ) 破産更生債権等に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

( 2 ) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については( )で表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

株式の時価については、取引所の相場によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項は(有価証券関係)の注記を参照ください。

(4) 長期貸付金

返済期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、当該価額をもって時価としております。

(5) 破産更生債権等

破産更生債権等の時価については、個別に貸倒見積額を算定しているため、時価は連結決算日における連結貸借対照表価額から貸倒引当金を控除した金額に近似しており、当該価額をもって時価としております。

## 負債

### (1) 支払手形及び買掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

### (2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

### (3) 長期借入金

長期借入金の時価については、変動金利によるものは短期間で市場金利を反映し、また当社の信用状態が実行後大きく異なっていないため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。固定金利によるものは、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。また、変動金利による借入金の一部は、金利スワップの特例処理の対象とされており（(デリバティブ取引関係)の注記参照）、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

## デリバティブ取引

時価の算定方法は、取引先の金融機関から提示された価額等によっております。また、金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	平成24年3月20日	平成25年3月20日
非上場株式	252,432	332,432
関係会社株式		532,960

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「資産(3) 投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成24年3月20日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	3,705,205			
受取手形及び売掛金	8,954,795			
長期貸付金	16,050	1,053		
合計	12,676,051	1,053		

当連結会計年度(平成25年3月20日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	3,844,854			
受取手形及び売掛金	9,337,346			
長期貸付金	8,807	750		
合計	13,191,008	750		

(注4) 長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成24年3月20日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金		1,332,660	894,002	403,353	120,000	

当連結会計年度(平成25年3月20日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金		1,805,666	946,359	595,000	260,000	

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成24年3月20日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
株式	434,717	308,643	126,074
債券			
その他			
小計	434,717	308,643	126,074
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
株式	100,392	142,356	41,964
債券			
その他	119,350	144,497	25,146
小計	219,742	286,854	67,111
合計	654,460	595,497	58,963

(注) 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。

当連結会計年度(平成25年3月20日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
株式	501,979	311,869	190,109
債券			
その他	42,548	39,292	3,255
小計	544,527	351,162	193,365
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
株式	118,900	143,065	24,164
債券			
その他	102,015	105,876	3,860
小計	220,916	248,941	28,025
合計	765,443	600,103	165,339

(注) 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度(平成24年3月20日)

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超	時価	当該時価の算定方法
原則的処理方法	為替予約取引 買建 米ドル	買掛金	1,644,963		114,963	取引金融機関から提示された価格等によっております。

当連結会計年度(平成25年3月20日)

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超	時価	当該時価の算定方法
原則的処理方法	為替予約取引 買建 米ドル	買掛金	2,789,046		281,304	取引金融機関から提示された価格等によっております。

(2) 金利関連

前連結会計年度(平成24年3月20日)

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超	時価	当該時価の算定方法
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定 受取変動	長期借入金	515,000	245,000	(注)	

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(平成25年3月20日)

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超	時価	当該時価の算定方法
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定 受取変動	長期借入金	245,000	40,000	(注)	

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は確定給付型の制度として昭和45年7月より退職金制度の100%相当分について適格退職年金制度を採用していましたが、平成21年10月1日付で退職金制度を改訂し、従業員の資格・勤続年数等を基礎としたポイント制度を導入するとともに、規約型確定給付企業年金へ移行し、キャッシュバランス類似型制度を導入しております。

なお、従業員の退職等に際して、退職給付会計に準拠した数理計算による退職給付債務の対象とされない割増退職金を支払う場合があります。

また一部の連結子会社は退職金規程に基づく退職一時金制度を採用しております。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成24年3月20日)	当連結会計年度 (平成25年3月20日)
退職給付債務(千円)	2,637,724	2,764,254
年金資産(千円)	2,301,296	2,775,960
未積立退職給付債務(千円)	336,427	11,706
未認識数理計算上の差異(千円)	412,694	5,886
未認識過去勤務債務(千円)	87,137	52,282
前払年金費用(千円)	74,150	39,256
退職給付引当金(千円)	85,021	85,718

(注) 1 連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

(注) 2 当社において制度変更が行われたことに伴い、過去勤務債務(債務の減額)が発生しております。

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自平成23年3月21日 至平成24年3月20日)	当連結会計年度 (自平成24年3月21日 至平成25年3月20日)
勤務費用(千円)	153,822	166,804
利息費用(千円)	44,584	32,929
期待運用収益(千円)	54,296	57,532
過去勤務債務の費用処理額(千円)	34,854	34,854
数理計算上の差異の費用処理額(千円)	138,380	203,025
退職給付費用(千円)	247,635	310,372

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、勤務費用に計上しております。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職給付見込額の期間配分方法 期間定額基準  
割引率

前連結会計年度 (自 平成23年 3月21日 至 平成24年 3月20日)	当連結会計年度 (自 平成24年 3月21日 至 平成25年 3月20日)
1.29%	1.29%

期待運用収益率

前連結会計年度 (自 平成23年 3月21日 至 平成24年 3月20日)	当連結会計年度 (自 平成24年 3月21日 至 平成25年 3月20日)
2.5%	2.5%

過去勤務債務の額の処理年数 5年(定額法)

数理計算上の差異の処理年数 5年(定額法)

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションにかかる当初の資産計上額及び科目名

	前連結会計年度 (平成24年 3月20日)	当連結会計年度 (平成25年 3月20日)
現金及び預金	820千円	- 千円

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

会社名	提出会社
決議年月日	平成23年 9月 6日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 9 当社従業員 55 当社子会社取締役 5
株式の種類及び付与数(株)	普通株式 205,000
付与日	平成23年 9月28日
権利確定条件	(注)
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	自 平成25年 6月21日 至 平成27年 6月20日

(注) 新株予約権の行使の条件につきましては「第4提出会社の状況 1 株式等の状況 (2)新株予約権等の状況

(注) 3 新株予約権の行使の条件」に記載のとおりであります。



(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

会社名	提出会社
権利確定前 (株)	
前連結会計年度末	205,000
付与	
失効	
権利確定	
未確定残	205,000
権利確定後 (株)	
前連結会計年度末	
権利確定	
権利行使	
失効	
未行使残	

単価情報

会社名	提出会社
権利行使価格 (円)	365
行使時平均株価 (円)	
付与日における公正な評価単価 (円)	4

3. ストック・オプションの権利確定数の見積り方法

将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月20日)	当連結会計年度 (平成25年3月20日)
<b>繰延税金資産</b>		
投資有価証券	163,264千円	163,264千円
関係会社事業損失引当金	48,709千円	48,709千円
退職給付引当金	34,116千円	30,429千円
役員退職慰労引当金	77,490千円	75,316千円
減損損失	118,663千円	107,658千円
たな卸資産	55,285千円	85,017千円
賞与引当金	190,617千円	200,366千円
税務上の繰越欠損金	11,742千円	19,775千円
その他	137,091千円	227,049千円
繰延税金資産小計	836,982千円	957,586千円
評価性引当額	339,862千円	341,963千円
繰延税金資産合計	497,120千円	615,622千円
<b>繰延税金負債</b>		
前払年金費用	26,323千円	13,935千円
その他有価証券評価差額金	15,587千円	49,038千円
繰延ヘッジ損益	46,560千円	106,332千円
その他	3,072千円	2,850千円
繰延税金負債合計	91,543千円	172,158千円
繰延税金資産の純額	405,576千円	443,463千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月20日)	当連結会計年度 (平成25年3月20日)
法定実効税率	40.5%	40.5%
(調整)		
交際費等永久に損金に 算入されない項目	1.7%	1.6%
住民税均等割	2.3%	1.7%
法人税特別控除額	0.9%	0.7%
評価性引当額の増加額	0.2%	0.4%
持分法による投資利益等	0.1%	1.0%
その他	0.6%	0.3%
税効果会計適用後の 法人税等の負担率	44.5%	42.8%

### 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の修正

(前連結会計年度)

平成23年12月2日に「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が公布され、平成24年4月1日以降開始する事業年度より法人税率が変更されることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用される法定実効税率は、一時差異等に係る解消時期に応じて以下のとおりとなります。

平成25年3月21日から平成28年3月20日 37.8%

平成28年3月21日以降 35.5%

この税率の変更により繰延税金資産の純額が15,569千円減少し、当連結会計年度に計上された法人税等調整額が17,765千円、その他有価証券評価差額金が2,195千円、それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは事業部を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「建設機材関連事業」、「レンタル関連事業」、「住宅機器関連事業」及び「電子機器関連事業」の4つを報告セグメントとしております。

各報告セグメントに属する主な製品又はサービスの内容は下記のとおりであります。

建設機材関連事業：建設用仮設機材

レンタル関連事業：中高層用・低層用仮設機材・仮設観覧席のレンタル

住宅機器関連事業：梯子、脚立、アルミ型材・樹脂モール材、フィットネス関連商品

電子機器関連事業：無線通信機器

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部売上高及び振替高は主に市場実勢価格及び製造原価に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成23年3月21日 至 平成24年3月20日)

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額	連結財務諸表計上額
	建設機材 関連事業	レンタル 関連事業	住宅機器 関連事業	電子機器 関連事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	7,530,118	13,407,993	9,109,704	2,705,220	32,753,036	-	32,753,036
セグメント間の内部 売上高又は振替高	930,553	1,041	301,144	103,651	1,336,391	1,336,391	-
計	8,460,671	13,409,035	9,410,849	2,808,871	34,089,427	1,336,391	32,753,036
セグメント利益	462,338	962,428	708,360	103,301	2,236,429	-	2,236,429
セグメント資産	7,793,005	5,834,808	6,259,167	1,906,587	21,793,568	5,680,523	27,474,092
その他の項目							
減価償却費	135,838	1,454,511	91,654	67,529	1,749,533	25,366	1,774,899
有形固定資産及び 無形固定資産の 増加額	89,245	1,236,955	396,445	53,986	1,776,633	109,569	1,886,202

当連結会計年度(自 平成24年 3月21日 至 平成25年 3月20日)

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額	連結財務諸表計上額
	建設機材 関連事業	レンタル 関連事業	住宅機器 関連事業	電子機器 関連事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	8,506,630	13,822,284	9,250,218	3,438,080	35,017,213	-	35,017,213
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,093,825	1,416	330,823	112,241	1,538,307	1,538,307	-
計	9,600,456	13,823,700	9,581,042	3,550,321	36,555,521	1,538,307	35,017,213
セグメント利益	745,351	1,320,397	326,933	334,284	2,726,966	-	2,726,966
セグメント資産	8,092,488	5,685,619	6,066,100	3,085,279	22,929,488	6,347,650	29,277,139
その他の項目							
減価償却費	167,330	1,479,586	91,487	83,041	1,821,446	29,697	1,851,143
有形固定資産及び 無形固定資産の 増加額	236,387	1,517,387	36,690	214,274	2,004,739	38,460	2,043,200

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	34,089,427	36,555,521
セグメント間取引消去	1,336,391	1,538,307
連結財務諸表の売上高	32,753,036	35,017,213

(単位：千円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	21,793,568	22,929,488
全社資産(注)	5,680,523	6,347,650
連結財務諸表の資産合計	27,474,092	29,277,139

(注) 全社資産は、主に親会社における余資運用資産(現金・預金及び投資有価証券)、繰延税金資産及び管理部門に係る資産等であります。

(単位：千円)

その他の項目	報告セグメント計		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度
減価償却費	1,749,533	1,821,446	25,366	29,697	1,774,899	1,851,143
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,776,633	2,004,739	109,569	38,460	1,886,202	2,043,200

(注) 減価償却費並びに有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない全社資産にかかるものであります。

## 【関連情報】

前連結会計年度(自 平成23年3月21日 至 平成24年3月20日)

### 1. 製品及びサービスごとの情報

「セグメント情報 3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報」に記載のとおりであります。

### 2. 地域ごとの情報

#### (1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

#### (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

### 3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成24年3月21日 至 平成25年3月20日)

### 1. 製品及びサービスごとの情報

「セグメント情報 3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報」に記載のとおりであります。

### 2. 地域ごとの情報

#### (1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

#### (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

### 3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成23年 3月21日 至 平成24年 3月20日)

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額	連結財務諸表 計上額
	建設機材 関連事業	レンタル 関連事業	住宅機器 関連事業	電子機器 関連事業	合計		
減損損失	-	-	-	-	-	53,070	53,070

(注) 減損損失の調整額は、報告セグメントに帰属しない全社資産にかかるものであります。

当連結会計年度(自 平成24年 3月21日 至 平成25年 3月20日)

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額	連結財務諸表 計上額
	建設機材 関連事業	レンタル 関連事業	住宅機器 関連事業	電子機器 関連事業	合計		
減損損失	-	-	-	-	-	13,668	13,668

(注) 減損損失の調整額は、報告セグメントに帰属しない全社資産にかかるものであります。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

連結財務諸表提出会社の子会社及び関連会社等

前連結会計年度（自 平成23年 3月21日 至 平成24年 3月20日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権 等の所 有（被 所有） 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
非連 結子 会社	アルインコ 建設機材 レンタル (蘇州) 有限公司	中華人民 共和国 江蘇省 蘇州市	385,750	建設機材の レンタル・ 販売	(所有) 直接100	建設機材の レンタル・ 販売 役員の兼任	出資 (注)	385,750	投資その 他の資産 その他	385,750

(注) アルインコ建設機材レンタル(蘇州)有限公司の設立時に出資したものであります。

当連結会計年度（自 平成24年 3月21日 至 平成25年 3月20日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権 等の所 有（被 所有） 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
非連 結子 会社	アルインコ (タイランド) ㈱	タイ王国 バンコク 市	532,960	仮設機材の 製造並びに 販売	(所有) 直接100	仮設機材の 製造並びに 販売 役員の兼任	出資 (注)	532,960	投資有価 証券	532,960

(注) アルインコ(タイランド)㈱の設立時に出資したものであります。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

[次へ](#)



(1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (自平成23年3月21日 至平成24年3月20日)	当連結会計年度 (自平成24年3月21日 至平成25年3月20日)
1株当たり純資産額	773円64銭	856円96銭
1株当たり当期純利益	66円77銭	91円87銭
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	66円71銭	91円39銭

(注) 算定上の基礎

1. 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益

項目	前連結会計年度 (自平成23年3月21日 至平成24年3月20日)	当連結会計年度 (自平成24年3月21日 至平成25年3月20日)
1株当たり当期純利益		
当期純利益(千円)	1,187,387	1,633,648
普通株式に係る当期純利益(千円)	1,187,387	1,633,648
普通株式の期中平均株式数(株)	17,782,196	17,782,196
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
普通株式増加数(株)	17,201	94,085
(うち新株予約権(株))	(17,201)	(94,085)

2. 1株当たり純資産額

項目	前連結会計年度 (平成24年3月20日)	当連結会計年度 (平成25年3月20日)
純資産の部の合計額(千円)	13,757,821	15,276,061
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	820	37,343
(うち新株予約権(千円))	(820)	(820)
(うち少数株主持分(千円))	-	(36,523)
普通株式に係る期末の純資産(千円)	13,757,001	15,238,718
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の 普通株式の数(株)	17,782,196	17,782,195

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

記載事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	850,000			
1年以内に返済予定の長期借入金	1,845,040	2,079,324	1.118	
1年以内に返済予定のリース債務	8,554	14,860		
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	2,750,015	3,607,025	0.913	平成26年3月31日 ~ 平成29年11月30日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	33,683	56,095		平成26年3月24日 ~ 平成31年9月24日
その他有利子負債				
合計	5,487,292	5,757,304		

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

なお、リース債務については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、「平均利率」を記載しておりません。

2 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	1,805,666	946,359	595,000	260,000
リース債務	14,087	13,700	13,333	8,382

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	8,497,670	17,506,759	26,912,646	35,017,213
税金等調整前 四半期(当期)純利益 (千円)	624,012	1,553,183	2,644,429	2,849,101
四半期(当期)純利益 (千円)	310,959	904,020	1,548,696	1,633,648
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	17.49	50.84	87.09	91.87

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益金額 (円)	17.49	33.35	36.25	4.78

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月20日)	当事業年度 (平成25年3月20日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,176,222	3,080,250
受取手形	1, 3 3,112,752	1, 3 3,091,098
売掛金	1 5,440,776	1 5,857,895
商品及び製品	3,638,066	3,736,787
原材料	830,198	932,088
仕掛品	446,211	508,701
前渡金	32,674	36,962
前払費用	29,998	22,592
繰延税金資産	291,804	347,587
その他	1 277,115	1 469,175
貸倒引当金	28,101	17,569
流動資産合計	17,247,720	18,065,571
固定資産		
有形固定資産		
レンタル資産	16,340,037	16,683,257
減価償却累計額	14,322,786	14,747,989
レンタル資産（純額）	2,017,250	1,935,267
建物	2 2,952,471	2 2,982,099
減価償却累計額	2,022,676	2,112,047
建物（純額）	929,794	870,051
構築物	1,084,664	1,088,033
減価償却累計額	921,012	947,996
構築物（純額）	163,651	140,037
機械及び装置	747,258	839,285
減価償却累計額	628,516	666,681
機械及び装置（純額）	118,741	172,604
車両運搬具	65,767	54,166
減価償却累計額	63,896	52,346
車両運搬具（純額）	1,870	1,819
工具、器具及び備品	1,921,621	2,057,969
減価償却累計額	1,781,780	1,883,946
減損損失累計額	56,766	56,062
工具、器具及び備品（純額）	83,074	117,961
土地	2 1,726,777	2 1,670,331
リース資産	45,338	84,895
減価償却累計額	5,112	17,598
リース資産（純額）	40,226	67,296
建設仮勘定	3,676	9,129
有形固定資産合計	5,085,064	4,984,499
無形固定資産		
特許権	2,800	2,000
ソフトウェア	51,231	46,591
ソフトウェア仮勘定	4,147	-
その他	0	0
無形固定資産合計	58,179	48,591

	前事業年度 (平成24年3月20日)	当事業年度 (平成25年3月20日)
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	906,892	1,097,875
関係会社株式	779,576	1,312,536
関係会社出資金	1,145,007	1,161,746
長期貸付金	17,103	9,557
関係会社長期貸付金	606,696	701,880
破産更生債権等	7,936	7,695
長期前払費用	73,442	182,312
前払年金費用	74,150	39,256
敷金及び保証金	483,593	448,874
繰延税金資産	105,236	82,218
保険積立金	267,447	272,123
その他	30,053	30,053
貸倒引当金	468,636	467,995
投資その他の資産合計	4,028,500	4,878,134
固定資産合計	9,171,744	9,911,226
資産合計	26,419,465	27,976,797
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	3,780,166	3,406,569
買掛金	1,487,258	1,480,364
短期借入金	850,000	-
1年内返済予定の長期借入金	1,844,260	2,079,324
リース債務	8,554	14,860
未払金	501,559	682,244
未払費用	3,242	2,837
未払法人税等	780,852	828,514
前受金	25,519	3,019
預り金	68,579	73,611
賞与引当金	442,000	500,000
リコール損失引当金	-	180,000
その他	438	3,329
流動負債合計	9,792,432	9,254,674
<b>固定負債</b>		
長期借入金	2,750,015	3,607,025
リース債務	33,683	56,095
役員退職慰労引当金	218,284	212,159
長期預り保証金	229,957	223,371
その他	35,467	40,623
固定負債合計	3,267,407	4,139,274
負債合計	13,059,839	13,393,949

	前事業年度 (平成24年3月20日)	当事業年度 (平成25年3月20日)
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	5,571,558	5,571,558
<b>資本剰余金</b>		
資本準備金	3,206,759	3,206,759
その他資本剰余金	100,000	100,000
資本剰余金合計	3,306,759	3,306,759
<b>利益剰余金</b>		
<b>その他利益剰余金</b>		
別途積立金	2,001,846	2,001,846
繰越利益剰余金	2,929,357	3,973,088
利益剰余金合計	4,931,204	5,974,934
自己株式	562,495	562,496
株主資本合計	13,247,026	14,290,756
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	43,375	116,301
繰延ヘッジ損益	68,403	174,971
評価・換算差額等合計	111,779	291,272
新株予約権	820	820
純資産合計	13,359,625	14,582,848
負債純資産合計	26,419,465	27,976,797

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 3月21日 至 平成24年 3月20日)	当事業年度 (自 平成24年 3月21日 至 平成25年 3月20日)
売上高		
製品売上高	7,190,331	9,066,122
商品売上高	11,993,464	11,777,323
レンタル収入	12,138,932	12,533,739
売上高合計	<u>1 31,322,727</u>	<u>1 33,377,185</u>
売上原価		
商品及び製品期首たな卸高	3,001,200	3,638,066
当期商品仕入高	<u>1 8,479,070</u>	<u>1 8,074,742</u>
当期製品製造原価	<u>1 6,321,780</u>	<u>1 7,552,378</u>
合計	<u>17,802,051</u>	<u>19,265,187</u>
他勘定振替高	<u>7 915,947</u>	<u>7 1,052,469</u>
商品及び製品期末たな卸高	3,638,066	3,736,787
商品及び製品売上原価	<u>13,248,037</u>	<u>14,475,930</u>
レンタル原価	8,566,176	8,573,595
売上原価合計	<u>2 21,814,214</u>	<u>2 23,049,525</u>
売上総利益	9,508,513	10,327,659
販売費及び一般管理費	<u>3 7,344,904</u>	<u>3 7,782,469</u>
営業利益	2,163,608	2,545,190
営業外収益		
受取利息	18,125	20,438
受取配当金	39,887	48,672
受取地代家賃	57,754	56,254
為替差益	-	179,202
作業屑等売却益	59,892	47,211
その他	42,292	40,115
営業外収益合計	217,952	391,895
営業外費用		
支払利息	77,839	62,391
支払地代家賃	24,460	24,349
為替差損	126,889	-
その他	19,088	24,696
営業外費用合計	248,277	111,437
経常利益	2,133,282	2,825,648
特別利益		
有形固定資産売却益	<u>4 449</u>	<u>4 64</u>
貸倒引当金戻入額	42,498	-
特別利益合計	42,947	64

	前事業年度 (自 平成23年 3月21日 至 平成24年 3月20日)	当事業年度 (自 平成24年 3月21日 至 平成25年 3月20日)
特別損失		
有形固定資産除売却損	5 21,294	5 4,423
無形固定資産除売却損	-	6 200
債権放棄損	7,000	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	32,667	-
リコール損失引当金繰入額	-	180,000
減損損失	8 53,070	8 13,668
特別損失合計	114,031	198,291
税引前当期純利益	2,062,199	2,627,421
法人税、住民税及び事業税	959,957	1,282,905
法人税等調整額	63,164	125,988
法人税等合計	896,792	1,156,917
当期純利益	1,165,406	1,470,503

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成23年 3月21日 至 平成24年 3月20日)		当事業年度 (自 平成24年 3月21日 至 平成25年 3月20日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
1 材料費		3,876,234	60.0	4,509,208	59.2
2 外注加工費		1,358,807	21.0	1,682,297	22.1
3 労務費		581,878	9.0	679,810	8.9
4 経費		644,663	10.0	743,550	9.8
(うち減価償却費)		(156,186)		(176,856)	
当期総製造費用		6,461,585	100.0	7,614,867	100.0
期首仕掛品棚卸高		306,407		446,211	
合計		6,767,992		8,061,079	
期末仕掛品棚卸高		446,211		508,701	
当期製品製造原価		6,321,780		7,552,378	

(注) 当社は、予定原価に基づき、事業部別に単純総合原価計算を行っております。なお、原価差額は期末において合理的な方法により、売上原価及びたな卸資産に配賦計算しております。



## 【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 3月21日 至 平成24年 3月20日)	当事業年度 (自 平成24年 3月21日 至 平成25年 3月20日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	5,571,558	5,571,558
当期末残高	5,571,558	5,571,558
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
当期首残高	3,206,759	3,206,759
当期末残高	3,206,759	3,206,759
<b>その他資本剰余金</b>		
当期首残高	100,000	100,000
当期末残高	100,000	100,000
<b>資本剰余金合計</b>		
当期首残高	3,306,759	3,306,759
当期末残高	3,306,759	3,306,759
<b>利益剰余金</b>		
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>別途積立金</b>		
当期首残高	2,001,846	2,001,846
当期末残高	2,001,846	2,001,846
<b>繰越利益剰余金</b>		
当期首残高	2,084,030	2,929,357
当期変動額		
剰余金の配当	320,079	426,772
当期純利益	1,165,406	1,470,503
当期変動額合計	845,327	1,043,730
当期末残高	2,929,357	3,973,088
<b>利益剰余金合計</b>		
当期首残高	4,085,877	4,931,204
当期変動額		
剰余金の配当	320,079	426,772
当期純利益	1,165,406	1,470,503
当期変動額合計	845,327	1,043,730
当期末残高	4,931,204	5,974,934
<b>自己株式</b>		
当期首残高	562,495	562,495
当期変動額		
自己株式の取得	-	0
当期変動額合計	-	0
当期末残高	562,495	562,495

	前事業年度 (自 平成23年 3月21日 至 平成24年 3月20日)	当事業年度 (自 平成24年 3月21日 至 平成25年 3月20日)
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	12,401,699	13,247,026
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	320,079	426,772
当期純利益	1,165,406	1,470,503
自己株式の取得	-	0
<b>当期変動額合計</b>	845,327	1,043,729
当期末残高	13,247,026	14,290,756
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	10,003	43,375
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	53,379	72,925
<b>当期変動額合計</b>	53,379	72,925
当期末残高	43,375	116,301
<b>繰延ヘッジ損益</b>		
当期首残高	29,982	68,403
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	98,385	106,567
<b>当期変動額合計</b>	98,385	106,567
当期末残高	68,403	174,971
<b>評価・換算差額等合計</b>		
当期首残高	39,986	111,779
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	151,765	179,492
<b>当期変動額合計</b>	151,765	179,492
当期末残高	111,779	291,272
<b>新株予約権</b>		
当期首残高	-	820
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	820	-
<b>当期変動額合計</b>	820	-
当期末残高	820	820

	前事業年度 (自 平成23年 3月21日 至 平成24年 3月20日)	当事業年度 (自 平成24年 3月21日 至 平成25年 3月20日)
純資産合計		
当期首残高	12,361,713	13,359,625
当期変動額		
剰余金の配当	320,079	426,772
当期純利益	1,165,406	1,470,503
自己株式の取得	-	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	152,585	179,492
当期変動額合計	997,912	1,223,222
当期末残高	13,359,625	14,582,848

【重要な会計方針】

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2. デリバティブ取引により生じる正味の債権(及び債務)の評価基準及び評価方法

時価法

3. たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品・製品・原材料・仕掛品については総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)によっております。

4. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。

なお、耐用年数は次のとおりであります。

レンタル資産.....5年

建物.....2～47年

構築物.....2～40年

機械及び装置.....2～13年

車両運搬具.....2～4年

工具・器具及び備品...2～20年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法であります。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日がリース取引会計基準の改正適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用しております。

(4) 長期前払費用

定額法

5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権及び破産更生債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支出に備えるため、期間業績に応じた支給見込額を計上しております。

(3) リコール損失引当金

当社製品に係る市場回収処置（リコール）に伴う損失見込額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により、翌事業年度から費用処理しております。

(5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため「役員退職慰労金規程」（内規）による事業年度末要支給額を計上しております。

なお、平成21年6月18日開催の定時株主総会終結の時をもって、役員退職慰労金制度を廃止したことに伴い、制度廃止までの在任期間に対応する相当額を計上しております。

6. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。なお、振当処理の要件を満たしている為替予約等については振当処理に、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理によっております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段	ヘッジ対象
為替予約取引	商品及び原材料の輸入による外貨建金銭債務及び予定取引
金利スワップ取引	長期借入金の利息

(3) ヘッジ方針

デリバティブ取引に関する社内規程に基づき、為替変動リスク及び金利変動リスクを一定の範囲内でヘッジしております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動、キャッシュ・フローとヘッジ手段の間に高い相関関係があることを確認し、有効性の評価としております。ただし、一部の金利スワップ取引においては、契約の内容等によりヘッジに高い有効性が明らかに認められる場合については有効性の判定を省略しております。

また為替予約においては、取引すべてが将来の購入予定に基づくものであり、実行の可能性が極めて高いため有効性の判定は省略しております。

7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式を採用しております。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 関係会社に係る資産及び負債が、次のとおり含まれております。

	前事業年度 (平成24年3月20日)	当事業年度 (平成25年3月20日)
受取手形	51,904千円	18,535千円
売掛金	164,122千円	118,950千円
流動資産その他	53,581千円	94,170千円
支払手形	- 千円	26,072千円
買掛金	25,403千円	53,646千円

2 債務の担保に供している資産及び担保付債務は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年3月20日)	当事業年度 (平成25年3月20日)
(担保資産の種類)		
建物	355,041千円	331,210千円
土地	1,071,178千円	1,071,178千円
計	1,426,220千円	1,402,389千円
(担保付債務)		
1年内返済予定の長期借入金	280,000千円	340,000千円
長期借入金	1,445,000千円	1,375,000千円
計	1,725,000千円	1,715,000千円

- 3 期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。  
なお、当期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前事業年度 (平成24年3月20日)	当事業年度 (平成25年3月20日)
受取手形	63,009千円	49,816千円
支払手形	647,243千円	678,760千円

(損益計算書関係)

- 1 関係会社に係る取引が、次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成23年3月21日 至 平成24年3月20日)	当事業年度 (自 平成24年3月21日 至 平成25年3月20日)
売上高	621,636千円	316,694千円
仕入高	1,820,416千円	1,590,642千円
外注加工費等	186,793千円	281,786千円

- 2 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額

	前事業年度 (自 平成23年3月21日 至 平成24年3月20日)	当事業年度 (自 平成24年3月21日 至 平成25年3月20日)
売上原価	11,246千円	94,964千円

- 3 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度78%、当事業年度78%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度22%、当事業年度22%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年3月21日 至 平成24年3月20日)	当事業年度 (自 平成24年3月21日 至 平成25年3月20日)
給料及び手当	2,302,430千円	2,387,084千円
法定福利費	456,031千円	496,829千円
賞与引当金繰入額	364,474千円	410,129千円
退職給付費用	216,996千円	280,507千円
運送費及び保管費	1,017,473千円	1,089,504千円
貸倒引当金繰入額	733千円	4,937千円
減価償却費	101,120千円	90,662千円
家賃及び賃借料	546,590千円	528,834千円

4 有形固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度		当事業年度	
	(自	平成23年3月21日	(自	平成24年3月21日
	至	平成24年3月20日)	至	平成25年3月20日)
建物		236千円		-千円
車両運搬具		213千円		64千円
計		449千円		64千円

5 有形固定資産除売却損の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度		当事業年度	
	(自	平成23年3月21日	(自	平成24年3月21日
	至	平成24年3月20日)	至	平成25年3月20日)
レンタル資産		9,274千円		2,861千円
建物		810千円		996千円
構築物		2,518千円		0千円
機械及び装置		3,162千円		247千円
車両運搬具		131千円		40千円
工具、器具及び備品		1,210千円		165千円
解体撤去費用		4,185千円		112千円
計		21,294千円		4,423千円

6 無形固定資産除売却損の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度		当事業年度	
	(自	平成23年3月21日	(自	平成24年3月21日
	至	平成24年3月20日)	至	平成25年3月20日)
ソフトウェア		-千円		200千円

7 売上原価における他勘定振替高は、レンタル資産等への振替であります。

8 減損損失

前事業年度(自 平成23年3月21日 至 平成24年3月20日)

当社は内部管理上採用している事業区分を基準として資産のグルーピングを行っており、当事業年度におきましては以下の資産グループについて減損損失を計上しております。なお、遊休資産については、個々の資産ごとに減損損失の認識の判定及び測定を行っております。

用途	種類	場所	金額(千円)
遊休資産	土地	栃木県那須郡那須町	6,100
賃貸資産	土地	岩手県岩手郡雫石町	46,970

遊休資産については、現時点において今後稼動する見込が乏しいと判断したことから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

賃貸資産については、収益性の低下により遊休状態となっていることから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

減損損失の内訳は土地53,070千円であります。

なお、減損損失の測定における回収可能価額は正味売却額を使用し、不動産鑑定評価額に基づいて評価しております。



当事業年度(自 平成24年 3月21日 至 平成25年 3月20日)

当社は内部管理上採用している事業区分を基準として資産のグルーピングを行っており、当事業年度におきましては以下の資産グループについて減損損失を計上しております。なお、遊休資産については、個々の資産ごとに減損損失の認識の判定及び測定を行っております。

用途	種類	場所	金額(千円)
遊休資産	土地	岩手県岩手郡雫石町	13,668

遊休資産については、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

減損損失の内訳は土地13,668千円であります。

なお、減損損失の測定における回収可能価額は売買契約に基づく正味売却額により算定しております。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成23年 3月21日 至 平成24年 3月20日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	1,727,130			1,727,130

当事業年度(自 平成24年 3月21日 至 平成25年 3月20日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	1,727,130	1		1,727,131

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買い取りによる増加 1株

(リース取引関係)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

1. リース資産の内容

有形固定資産

建設機材関連事業等における生産設備(機械及び装置)及び全社資産におけるコンピュータ設備(工具、器具及び備品)であります。

2. リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

リース物件に関する会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

1. リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月20日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械及び装置	596,040	254,837	341,203
車両運搬具	96,642	65,502	31,139
工具、器具及び備品	3,771	2,963	808
合計	696,453	323,302	373,151

なお、取得価額相当額は、有形固定資産の期末残高等に占める未経過リース料期末残高の割合が低いため、一部のリース物件を除き、支払利子込み法により算定しております。

(単位：千円)

	当事業年度 (平成25年3月20日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械及び装置	556,378	287,187	269,191
車両運搬具	53,034	47,850	5,183
工具、器具及び備品	3,771	3,502	269
合計	613,183	338,539	274,644

なお、取得価額相当額は、有形固定資産の期末残高等に占める未経過リース料期末残高の割合が低いため、一部のリース物件を除き、支払利子込み法により算定しております。

2. 未経過リース料期末残高相当額

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月20日)	当事業年度 (平成25年3月20日)
1年以内	88,182	70,271
1年超	295,388	215,506
合計	383,571	285,777

なお、未経過リース料期末残高相当額は、有形固定資産の期末残高等に占める未経過リース料期末残高の割合が低いため、一部のリース物件を除き、支払利子込み法により算定しております。

### 3. 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 3月21日 至 平成24年 3月20日)	当事業年度 (自 平成24年 3月21日 至 平成25年 3月20日)
支払リース料	132,145	95,433
減価償却費相当額	123,497	86,785
支払利息相当額	11,133	9,361

### 4. 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、主として残存価額を零とする定額法によっております。

### 5. 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

前事業年度(平成24年 3月20日)

区 分	貸借対照表計上額 (千円)	時 価 (千円)	差 額 (千円)
子会社株式			
関連会社株式	314,876	672,830	357,954
合 計	314,876	672,830	357,954

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式

区 分	貸借対照表計上額 (千円)
子会社株式	464,700
関連会社株式	
合 計	464,700

上記については、市場価格がありません。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

当事業年度(平成25年3月20日)

区分	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
子会社株式			
関連会社株式	314,876	792,885	478,009
合計	314,876	792,885	478,009

(注)時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式

区分	貸借対照表計上額 (千円)
子会社株式	997,660
関連会社株式	
合計	997,660

上記については、市場価格がありません。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

(税効果会計関係)

1.繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成24年3月20日)	当事業年度 (平成25年3月20日)
<b>繰延税金資産</b>		
投資有価証券	13,844千円	13,844千円
関係会社株式	210,984千円	210,984千円
貸倒引当金	141,429千円	159,157千円
役員退職慰労引当金	77,490千円	75,316千円
減損損失	118,663千円	107,658千円
たな卸資産	55,285千円	83,283千円
賞与引当金	179,010千円	189,000千円
その他	179,100千円	258,784千円
繰延税金資産小計	975,808千円	1,098,029千円
評価性引当額	487,223千円	496,065千円
繰延税金資産合計	488,585千円	601,964千円
<b>繰延税金負債</b>		
前払年金費用	26,323千円	13,935千円
その他有価証券評価差額金	15,587千円	49,038千円
繰越ヘッジ損益	46,560千円	106,332千円
その他	3,072千円	2,850千円
繰延税金負債合計	91,543千円	172,158千円
繰延税金資産の純額	397,041千円	429,805千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成24年3月20日)	当事業年度 (平成25年3月20日)
法定実効税率 (調整)	40.5%	40.5%
交際費等永久に損金に 算入されない項目	1.5%	1.5%
住民税均等割	2.3%	1.8%
法人税特別控除額	1.0%	0.8%
評価性引当額の増減額	0.1%	0.3%
税率変更による期末繰延税金資産 の減額修正	0.8%	1.2%
その他	0.6%	0.5%
税効果会計適用後の 法人税等の負担率	43.4%	44.0%

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の修正  
(前事業年度)

平成23年12月2日に「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が公布され、平成24年4月1日以降開始する事業年度より法人税率が変更されることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用される法定実効税率は、一時差異等に係る解消時期に応じて以下のとおりとなります。

平成25年3月21日から平成28年3月20日 37.8%

平成28年3月21日以降 35.5%

この税率の変更により繰延税金資産の純額が14,822千円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が17,017千円、その他有価証券評価差額金が2,195千円、それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

項目	前事業年度 (自 平成23年 3月21日 至 平成24年 3月20日)	当事業年度 (自 平成24年 3月21日 至 平成25年 3月20日)
1株当たり純資産額	751円25銭	820円04銭
1株当たり当期純利益	65円54銭	82円70銭
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	65円47銭	82円26銭

(注) 算定上の基礎

1. 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益

項目	前事業年度 (自 平成23年 3月21日 至 平成24年 3月20日)	当事業年度 (自 平成24年 3月21日 至 平成25年 3月20日)
1株当たり当期純利益		
当期純利益(千円)	1,165,406	1,470,503
普通株式に係る当期純利益(千円)	1,165,406	1,470,503
普通株式の期中平均株式数(株)	17,782,196	17,782,196
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
普通株式増加数(株)	17,201	94,085
(うち新株予約権(株))	(17,201)	(94,085)

2. 1株当たり純資産額

項目	前連結会計年度 (平成24年 3月20日)	当事業年度 (平成25年 3月20日)
純資産の部の合計額(千円)	13,359,625	14,582,848
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	820	820
(うち新株予約権(千円))	(820)	(820)
普通株式に係る期末の純資産(千円)	13,358,805	14,582,028
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の 普通株式の数(株)	17,782,196	17,782,195

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)
投資有価 証券	その他有 価証券	(株)ピカコーポレイション	19,000	123,500
		(株)アクトワンヤマイチ	115,000	83,750
		(株)りそなホールディングス	142,600	73,153
		大東建託(株)	6,550	54,040
		(株)南都銀行	120,000	52,800
		(株)みずほフィナンシャルグループ 第13回優先株	50	50,000
		(株)淀川製鋼所	130,000	44,200
		阪和興業(株)	113,681	41,948
		(株)みずほフィナンシャルグループ	199,000	41,790
		住金物産(株)	102,000	34,578
		その他35銘柄	462,907	353,550
		計	1,410,788	953,312

【その他】

		種類及び銘柄	投資口数等(口)	貸借対照表計上額 (千円)
投資有価 証券	その他有 価証券	(証券投資信託の受益証券)		
		みずほ投信投資顧問(株)		
		株式インデックスファンド225	451,996,059	102,015
		その他証券投資信託受益証券 2銘柄	59,543,054	42,548
		計	511,539,113	144,563

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円)	当期末 減損損失 累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産								
レンタル資産	16,340,037	1,414,626	1,071,407	16,683,257	14,747,989		1,386,844	1,935,267
建物	2,952,471	33,557	3,929	2,982,099	2,112,047		92,304	870,051
構築物	1,084,664	3,820	450	1,088,033	947,996		27,433	140,037
機械及び装置	747,258	98,023	5,995	839,285	666,681		43,913	172,604
車両運搬具	65,767	2,973	14,574	54,166	52,346		2,968	1,819
工具、器具及び備品	1,921,621	167,929	31,581	2,057,969	1,883,946	56,062	132,898	117,961
土地	1,726,777		56,445 (13,668)	1,670,331				1,670,331
リース資産	45,338	39,556		84,895	17,598		12,486	67,296
建設仮勘定	3,676	9,129	3,676	9,129				9,129
有形固定資産計	24,887,612	1,769,616	1,188,060 (13,668)	25,469,168	20,428,606	56,062	1,698,850	4,984,499
無形固定資産								
特許権				4,000	2,000		800	2,000
ソフトウェア				89,776	43,185		16,893	46,591
電話加入権				0				0
無形固定資産計				93,776	45,185		17,693	48,591
長期前払費用	110,587	134,314	18,739	226,162	43,850		10,079	182,312

(注) 1 「当期減少額」欄の( )は内数で、当期の減損損失計上額であります。

2 当期増加額のうち主なものは以下のとおりであります。

レンタル資産	低層用仮設機材	293,187千円
レンタル資産	中・高層用仮設機材	854,322千円
レンタル資産	アルミ作業台等	263,547千円

3 当期減少額のうち主なものは以下のとおりであります。

レンタル資産	低層用仮設機材	459,781千円
レンタル資産	中・高層用仮設機材	292,254千円
レンタル資産	アルミ作業台等	291,881千円

4 長期前払費用のうち、建設協力金の延払いに係る残高は171,941千円であり、減価償却と性格が異なるため償却累計額及び当期償却額の算定には含めておりません。

5 無形固定資産の金額が資産の総額の1%以下であるため「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	496,738	7,485	6,080	12,578	485,565
賞与引当金	442,000	500,000	442,000		500,000
リコール損失引当金		180,000			180,000
役員退職慰労引当金	218,284		6,125		212,159

(注) 貸倒引当金の当期減少額のうち他は、回収等による取崩額であります。



(2) 【主な資産及び負債の内容】

資産の部

現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	2,821
預金	
当座預金	1,450,578
普通預金	36,850
定期預金	1,590,000
小計	3,077,429
計	3,080,250

受取手形

イ 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)山善	407,655
芝浦電子工業(株)	350,920
朝日機材(株)	219,829
(株)ナフコ	127,869
(株)メタルワン建材	125,062
その他	1,859,760
計	3,091,098

ロ 期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成25年4月	837,036
平成25年5月	779,763
平成25年6月	716,249
平成25年7月	544,405
平成25年8月	141,927
平成25年9月以降	71,714
計	3,091,098

売掛金  
イ 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)杉孝グループホールディングス	758,983
(株)富士通ゼネラル	345,303
大東建託(株)	143,690
D C Mホールディングス(株)	140,479
小泉成器(株)	139,296
その他	4,330,142
計	5,857,895

ロ 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高(千円) (A)	当期発生高(千円) (B)	当期回収高(千円) (C)	当期末残高(千円) (D)	回収率(%) $\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	滞留期間(日) $\frac{(A) + (D)}{2}$ 366
5,440,776	35,001,658	34,584,540	5,857,895	85.5	59.0

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

商品及び製品

区分	金額(千円)
商品	
建設機材(鋼管、メッシュシート)	103,391
住宅機器 (梯子、脚立、三脚、踏台、フィットネス機器、 アルミ型材)	1,512,595
計	1,615,986
製品	
建設機材(建柱、足場板、筋違、アルミ製作業台)	1,508,007
住宅機器(アルミ製品)	22,848
電子機器(無線機器)	589,945
計	2,120,801
合計	3,736,787

原材料

区分	金額(千円)
建設機材(鋼管、帯鋼、アルミ型材)	387,951
電子機器(チップ部品)	544,137
計	932,088

仕掛品

区分	金額(千円)
建設機材	394,563
電子機器	114,137
計	508,701

負債の部

支払手形

イ 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
住金物産(株)	225,445
豊通マテリアル(株)	224,447
大和冷機工業(株)	220,631
阪和興業(株)	179,665
(株)興和工業所	141,851
その他	2,414,529
計	3,406,569

ロ 期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成25年4月	1,050,641
平成25年5月	807,633
平成25年6月	637,657
平成25年7月	616,038
平成25年8月	294,598
計	3,406,569

買掛金

相手先	金額(千円)
阪和興業(株)	68,473
豊通マテリアル(株)	49,820
アルインコ富山(株)	33,858
(株)興和工業所	29,869
日本通運(株)	23,934
その他	1,274,407
計	1,480,364

1年内返済予定の長期借入金

借入先	金額(千円)
(株)近畿大阪銀行	379,996
(株)みずほ銀行	340,000
(株)三菱東京UFJ銀行	240,000
(株)三井住友銀行	231,664
(株)南都銀行	229,000
その他	658,664
計	2,079,324

長期借入金

借入先	金額(千円)
(株)近畿大阪銀行	743,349
(株)みずほ銀行	550,000
(株)三菱東京UFJ銀行	495,000
(株)日本政策投資銀行	450,000
(株)南都銀行	435,000
その他	933,676
計	3,607,025

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	3月21日から3月20日まで		
定時株主総会	6月20日まで		
基準日	3月20日		
剰余金の配当の基準日	9月20日、3月20日		
1単元の株式数	100株		
単元未満株式の買取り			
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部		
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社		
取次所			
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として以下の算式により1単元当たりの金額を算定し、これを買取った単元未満株式の数で按分した金額 (算式) 100万円以下の金額につき 1.150% 100万円を超え500万円以下の金額につき 0.900% 500万円を超え1,000万円以下の金額につき 0.700% 1,000万円を超え3,000万円以下の金額につき 0.575% 3,000万円を超え5,000万円以下の金額につき 0.375% (円未満の端数を生じた場合は切り捨てる。) 但し、1単元当たりの算定金額が2,500円に満たない場合には、2,500円とする。		
公告掲載方法	当社の公告方法は電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。 なお、電子公告は、当社のホームページに掲載し、そのアドレスは以下のとおりです。 <a href="http://www.alinco.co.jp">http://www.alinco.co.jp</a>		
株主に対する特典	3月20日現在の株主に対し、持株数と保有期間に応じ次の株主優待を行う。		
	保有株式数	保有期間3年未満	保有期間3年以上継続
	1,000株以上5,000株未満	2,000円の商品券贈呈	3,000円の商品券贈呈
	5,000株以上10,000株未満	4,000円の商品券贈呈	5,000円の商品券贈呈
	10,000株以上	6,000円の商品券贈呈	8,000円の商品券贈呈

(注) 単元未満株主の権利は次のとおりであります。

当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。

- (1) 会社法第189条第2項の各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書 及びその添付書類、 有価証券報告書の 確認書	事業年度 (第42期)	自 至	平成23年3月21日 平成24年3月20日	平成24年6月20日 関東財務局長に提出。
(2) 内部統制報告書及び その添付書類				平成24年6月20日 関東財務局長に提出。
(3) 四半期報告書、 四半期報告書の確認書	第43期 第1四半期	自 至	平成24年3月21日 平成24年6月20日	平成24年8月3日 関東財務局長に提出。
	第43期 第2四半期	自 至	平成24年6月21日 平成24年9月20日	平成24年11月1日 関東財務局長に提出。
	第43期 第3四半期	自 至	平成24年9月21日 平成24年12月20日	平成25年2月1日 関東財務局長に提出。
(4) 臨時報告書	企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書であります。			平成24年6月21日 関東財務局長に提出。
(5) 有価証券報告書の 訂正報告書、 有価証券報告書の 訂正報告書の確認書	事業年度 (第40期)	自 至	平成21年3月21日 平成22年3月20日	平成25年6月4日 関東財務局長に提出。
	事業年度 (第41期)	自 至	平成22年3月21日 平成23年3月20日	平成25年6月4日 関東財務局長に提出。
	事業年度 (第42期)	自 至	平成23年3月21日 平成24年3月20日	平成25年6月4日 関東財務局長に提出。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成25年 6月17日

アルインコ株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 原 田 大 輔 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 神 田 正 史 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 桃 原 一 也 印

### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているアルインコ株式会社の平成24年3月21日から平成25年3月20日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アルインコ株式会社及び連結子会社の平成25年3月20日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、アルインコ株式会社の平成25年3月20日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、アルインコ株式会社が平成25年3月20日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
  - 2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

## 独立監査人の監査報告書

平成25年 6月17日

アルインコ株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 原 田 大 輔 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 神 田 正 史 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 桃 原 一 也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているアルインコ株式会社の平成24年3月21日から平成25年3月20日までの第43期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アルインコ株式会社の平成25年3月20日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。